

ISSN 0910-044X

放射能調査報告書

平成12年調査結果

平成14年3月

海上保安庁水路部

平成12年放射能調査報告書

目 次

はじめに	1
1. 日本近海における海水及び海底土の放射能調査	
1. 1 調査の概要	3
1. 1. 1 調査海域	3
1. 1. 2 試料採取	3
1. 1. 3 測定項目	4
1. 2 放射能測定	4
1. 2. 1 放射化学分析	4
1. 2. 2 測 定	5
1. 3 結 果	6
1. 3. 1 海 水	6
1. 3. 2 海 底 土	6
2. 核燃料再処理施設周辺海域の放射能調査	
2. 1 調査の概要	13
2. 1. 1 調査海域	13
2. 1. 2 試料採取	13
2. 1. 3 測定項目	13
2. 2 放射能測定	14
2. 2. 1 ガンマ線分光分析	14
2. 2. 2 放射化学分析	14
2. 3 粒度分析	14
2. 4 結 果	14
2. 4. 1 海 水	15
2. 4. 2 海 底 土	15

3.	深海域（北太平洋西部海域・日本海・オホーツク海）における海水及び海底土の放射能調査・深海流の測定	
3.1	北太平洋西部海域の調査の概要	21
3.1.1	調査海域	21
3.1.2	試料採取	21
3.1.3	測定項目	22
3.2	放射能測定	22
3.2.1	放射化学分析	22
3.2.2	測 定	23
3.3	結 果	23
3.3.1	海 水	23
3.3.2	海 底 土	23
3.4	日本海・オホーツク海の調査の概要	27
3.4.1	調査海域	27
3.4.2	試料採取	27
3.4.3	測定項目	28
3.5	放射能測定	28
3.5.1	放射化学分析	28
3.5.2	測 定	28
3.6	結 果	28
3.6.1	海 水	28
3.6.2	海 底 土	28
3.7	深海流の測定	44
3.7.1	測定方法	44
3.7.2	流況の概要	44

はじめに

海上保安庁水路部では、海洋汚染の防止及び海洋環境保全のための科

学的調査の一環として、海洋における放射能調査を実施している。

本調査は、国の原子力行政の一元化の方針に基づき、原子力委員会に

よる業務調整の下に、文部科学省（旧科学技術庁）で一括計上される

放射能調査研究費によって実施されているものである。

本調査報告書は、平成12年に実施した「日本近海における海水及び海

底土の放射能調査」、「核燃料再処理施設周辺海域の放射能調査」、

「深海域（北太平洋西部海域・日本海・オホーツク海）における海水及

び海底土の放射能調査・深海流の測定」の調査結果である。

1. 日本近海における海水及び海底土の放射能調査

1.1 調査の概要

この調査は、核実験等が海洋の自然環境に及ぼす影響を把握するために実施しており、日本近海の海水及び海底土に含まれる放射性物質の分布状況、経年変化等を把握するものである。

海水については昭和34年(1959年)に、海底土については同48年(1973年)にそれぞれ調査を開始し、以来継続して実施している。本報告は平成12年(2000年)の調査結果をまとめたものである。

1.1.1 調査海域

試料の採取点は、図1-1に示すとおりである。海水は○印、海底土は●印で示した。なお、採取点に付した数字は試料番号である。

1.1.2 試料の採取

試料の採取は、本庁水路部所属の測量船及び管区海上保安本部所属の巡視船・測量船で行った。

海水はポリエチレン製のバケツを用いて表面海水約20ℓを採取し、直ちに塩酸(40mL)を加えた。

海底土はスミス・マッキンタイヤ型採泥器又はエクマンバージ型採泥器を用いて採取し、表層部の約2cmを分け取った。

採取された試料数は、海水32試料、海底土9試料であり、各海域ごとの試料数及び採取機関は次のとおりである。

調査海域	海 水	海 底 土	採 取 機 関
黒潮域	6	—	十管区
親潮域	4	—	一、二各管区
日本海	19	—	一、二、七、八、九各管区
オホーツク海	3	—	一管区
沿岸海域	—	9	本庁、一、六、八、九、十各管区
試料数計	32	9	

1.1.3 測定項目

各試料の測定核種は次のとおりである。

海 水	セ シ ウ ム-137	(Cs-137、半減期	30年)
	ストロンチウム-90	(Sr-90、半減期	29年)

海底土	セ シ ウ ム-137		
	ストロンチウム-90		
	コ バ ル ト-60	(Co-60、半減期	5.3年)
	プルトニウム-239, 240	(Pu-239、半減期	24, 100年)
		(Pu-240、半減期	6, 560年)

1.2 放射能測定

1.2.1 放射化学分析

各試料は、核種ごとに次の化学処理を行い分離精製し、ベータ線計測あるいはアルファ線計測を行った。化学収率の補正は、Puでは添加したPu-242の計測値から、海底土のSrでは標準添加法を用いる原子吸光光度法及びイットリウム(Y)担体添加法で、その他の核種ではいずれも添加した担体の回収重量から求めた。

(1) 海 水

[Sr-90] 試料に水酸化ナトリウム溶液を加え、水酸化マグネシウムと共に沈せら過する。得られた上澄み液・ろ液を酸性とした後、Y担体を加え2週間以上放置する。これに水酸化ナトリウム溶液を加え、Sr-90と放射平衡にあるY-90を水酸化マグネシウムと共に沈させ、ろ別した（上澄み液・ろ液はCs-137の分析に用いる）。沈澱物を塩酸で溶解し、りん酸水素ビス（2-エチルヘキシル）抽出法、更に陽イオン交換法によってYを分離精製し、これを硫酸塩として沈澱させ、ろ別、乾燥して計測試料とした。

[Cs-137] Sr-90の分析中に得られた上澄み液・ろ液を酸性とした後、りんモリブデン酸アンモニウムを加えCsを吸着させ、ろ別した。ろ別したりんモリブデン酸アンモニウムを水酸化ナトリウム溶液で溶解し、Duolite C-3を用いる陽イオン交換法でCsを分離精製した後、これを塩化白金酸塩として沈澱させ、ろ別、乾燥して計測試料とした。

(2) 海底土

化学処理に先立ち、採取試料を乾燥、粉碎し、目開き2mmのふるいを通過した部分を分析試料とした。

[Pu-239, 240] 乾土50gを用い、Pu-242標準液を添加した後、熱8.4M硝酸

で浸出し、浸出液を蒸発濃縮した後、熱8.4M硝酸に溶解し、過酸化水素で処理し、陰イオン交換樹脂カラムに通しPu(IV)を吸着させた。8.4M硝酸及び10M塩酸で樹脂を洗浄後、よう化アンモニウム-塩酸溶液でPu(IV)をPu(III)に還元し溶離した。分離精製した試料はステンレススチール板上に電着して計測試料とした。

[Cs-137] 乾土50gを用い、470°Cで有機物を熱分解した後、熱8M塩酸で浸出し、浸出液にりんモリブデン酸アンモニウムを加えCsを吸着させ、ろ別した。以後の処理は海水と同様である。

[Co-60] 乾土300gを用い、470°Cで有機物を熱分解した後、熱8M塩酸で浸出し、浸出液を陰イオン交換樹脂に通しCoを吸着させた（流出液・洗液はSr-90の分析に用いる）。吸着させたCoは4M塩酸で溶離した後、テトラヒドロフラン-塩酸混液を用いる陽イオン交換法により分離精製し、銅板上に電着して計測試料とした。

[Sr-90] Co-60の分析中に得られた流出液・洗液をアンモニア水で中和してアルミニウム化合物等を沈殿させ除去した。ろ液に炭酸アンモニウム溶液を加えSrを沈殿させ、ろ別した。沈殿物は硝酸で溶解し、その溶液を煮沸して炭酸ガスを抜いた後、Y担体を加え2週間以上放置する。以後の処理は海水と同様である。

1.2.2 測 定

海水、海底土のY-90のベータ線計測は4π低バックグランドガスフローカウンタ（アロカ製LBC-3）を、また海水、海底土のCs-137及びCo-60のベータ線計測には低バックグランドベータ線スペクトロメータ（富士電機製ピコベータ）をそれぞれ用いた。

Pu-239, 240のアルファ線スペクトル計測には α 線スペクトロメータ（SEIKO EG&G社製、OCTPL-U0450）を用いた。

1.3 結 果

平成12年（2000年）に採取した試料の測定結果を海水、海底土についてそれぞれ表1-1及び表1-2に示す。測定値には計数誤差を付記した。

1.3.1 海 水

各核種の海域別の最大値、最小値及び平均値は下表のとおりである。

核 種	Cs-137			Sr-90		
	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均
黒 潮 域	2.6	1.7	2.2	2.3	1.0	1.5
親 潮 域	2.7	1.9	2.2	1.7	1.1	1.4
日 本 海	3.3	1.6	2.3	2.3	1.1	1.6
オホーツク海	1.2	1.0	1.1	0.9	0.6	0.8

単位 : mBq/L

また、従来の値と比較するために、図1-2に1972年（昭和47年）以降の海域別年平均値の経年変化を示した。

これらの結果から、Cs-137及びSr-90は各年のレベルに多少の上下はあるものの減少傾向がみられる。

1.3.2 海底土

各核種の最大値、最小値及び平均値は下表のとおりである。

核 種	Pu-239, 240	Cs-137	Sr- 90	Co- 60
最 大	1.90	2.34	0.166	0.032
最 小	0.34	0.20	0.018	0.006
平 均	1.01	1.20	0.075	0.021

単位 : Bq/kg - 乾土

従来の値と比較するために、図1-3～図1-6に、Sr-90（1981年以降）、Co-60（1974年以降）、Cs-137（1981年以降）及びPu-239, 240（1983年以降）についてそれぞれ年平均値、最大値及び最小値の経年変化を示した。

Pu-239, 240、Cs-137及びSr-90は、各年のレベルに多少の上下はあるものの、長期的にはほぼ横ばいの傾向にある。

Co-60は、緩やかな減少傾向が続き、非常に低いレベルで推移している。

表1-1 日本近海放射能調査結果－海水(平成12年)

(供試料：約20L)

試料番号	採取位置		採取年月日	放射能濃度($\mu\text{Bq/L}$)	
	緯度(N)	経度(E)		^{137}Cs	^{90}Sr
黒潮域					
1	31 - 00	131 - 30	2000. 8. 27	2.4 ± 0.2	1.3 ± 0.3
2	30 - 10	132 - 20	2000. 8. 28	2.2 ± 0.2	1.4 ± 0.3
3	30 - 05	130 - 50	2000. 8. 28	2.6 ± 0.2	2.3 ± 0.3
4	28 - 56	129 - 00	2000. 8. 29	2.6 ± 0.2	1.4 ± 0.3
5	30 - 00	129 - 25	2000. 8. 30	1.7 ± 0.2	1.0 ± 0.2
6	31 - 00	130 - 15	2000. 8. 30	1.8 ± 0.1	1.7 ± 0.2
			平均	2.2	1.5
親潮域					
7	42 - 30	145 - 50	2000. 9. 9	1.9 ± 0.2	1.1 ± 0.3
8	42 - 53	144 - 06	2000. 9. 11	1.9 ± 0.2	1.4 ± 0.3
9	39 - 00	142 - 30	2000. 10. 25	2.7 ± 0.2	1.6 ± 0.3
10	37 - 00	142 - 30	2000. 10. 25	2.4 ± 0.2	1.7 ± 0.3
			平均	2.2	1.4
日本海					
11	37 - 30	138 - 00	2000. 4. 26	2.7 ± 0.2	1.4 ± 0.2
12	39 - 30	136 - 03	2000. 4. 27	2.7 ± 0.2	1.7 ± 0.3
13	35 - 35	135 - 20	2000. 6. 1	1.8 ± 0.2	1.5 ± 0.3
14	43 - 30	140 - 00	2000. 8. 23	3.0 ± 0.2	1.9 ± 0.3
15	44 - 30	140 - 00	2000. 8. 24	3.3 ± 0.2	1.4 ± 0.3
16	34 - 25	130 - 10	2000. 8. 28	1.7 ± 0.1	1.6 ± 0.3
17	34 - 10	129 - 50	2000. 8. 28	2.0 ± 0.1	1.1 ± 0.2
18	34 - 00	129 - 30	2000. 8. 29	1.6 ± 0.2	1.9 ± 0.3
19	33 - 40	129 - 50	2000. 8. 29	1.7 ± 0.2	1.5 ± 0.3
20	35 - 50	135 - 10	2000. 9. 8	2.1 ± 0.1	1.9 ± 0.3
21	37 - 20	134 - 40	2000. 9. 8	2.3 ± 0.2	1.8 ± 0.2
22	35 - 50	134 - 10	2000. 9. 9	2.8 ± 0.2	1.7 ± 0.2
23	37 - 50	133 - 40	2000. 9. 9	2.5 ± 0.2	1.4 ± 0.3
24	35 - 50	133 - 10	2000. 9. 10	2.1 ± 0.1	1.8 ± 0.3
25	37 - 50	132 - 40	2000. 9. 10	2.4 ± 0.2	2.3 ± 0.3
26	38 - 00	135 - 30	2000. 9. 19	1.9 ± 0.1	1.1 ± 0.2
27	39 - 00	134 - 00	2000. 9. 19	2.4 ± 0.2	1.4 ± 0.2
28	38 - 10	136 - 55	2000. 9. 19	2.0 ± 0.2	1.1 ± 0.2
29	42 - 40	138 - 30	2000. 11. 28	2.1 ± 0.2	1.3 ± 0.3
			平均	2.3	1.6

表1-1 日本近海放射能調査結果－海水(平成12年) (続)

(供試料：約20L)

試料番号	採取位置		採取年月日	放射能濃度(mBq/L)	
	緯度(N)	経度(E)		¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr
オホーツク海					
30	45 - 10	143 - 30	2000.12. 5	1.0 ± 0.2	0.6 ± 0.3
31	44 - 00	144 - 30	2000.12. 7	1.2 ± 0.2	0.8 ± 0.3
32	44 - 40	144 - 30	2000.12. 7	1.0 ± 0.2	0.9 ± 0.2
			平均	1.1	0.8

表1-2 日本近海放射能調査結果－海底土 (平成12年)

(供試料：^{239, 240}Pu, ¹³⁷Cs 50 g, ⁹⁰Sr, ⁶⁰Co 300 g)

試料番号	採取位置		採取年月日	水深(m)	放射能濃度(Bq/kg—乾土)			
	緯度(N)	経度(E)			^{239, 240} Pu	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	⁶⁰ Co
1	34 - 44	136 - 41	2000. 1. 16	32	1.90 ± 0.09	2.34 ± 0.06	0.166 ± 0.009	0.032 ± 0.009
2	34 - 25	135 - 07	2000. 1. 18	29	0.63 ± 0.03	1.18 ± 0.05	0.039 ± 0.005	0.026 ± 0.009
3	35 - 33	139 - 50	2000. 1. 28	19	1.62 ± 0.07	1.93 ± 0.06	0.105 ± 0.008	0.014 ± 0.009
4	35 - 35	135 - 20	2000. 6. 1	55	1.31 ± 0.07	1.34 ± 0.05	0.056 ± 0.004	0.024 ± 0.009
5	43 - 20	141 - 10	2000. 8. 23	38	0.35 ± 0.02	0.54 ± 0.04	0.020 ± 0.004	0.006 ± 0.008
6	31 - 30	130 - 38	2000. 8. 27	220	1.37 ± 0.06	0.69 ± 0.04	0.128 ± 0.005	0.032 ± 0.009
7	34 - 13	132 - 19	2000. 10. 4	18	0.66 ± 0.03	1.45 ± 0.05	0.063 ± 0.005	0.022 ± 0.008
8	37 - 57	139 - 02	2000. 11. 2	20	0.34 ± 0.02	0.20 ± 0.03	0.018 ± 0.006	0.017 ± 0.008
9	38 - 17	141 - 10	2000. 11. 14	24	0.93 ± 0.14	1.11 ± 0.05	0.079 ± 0.006	0.013 ± 0.008
平均				1.01	1.20	0.075	0.021	

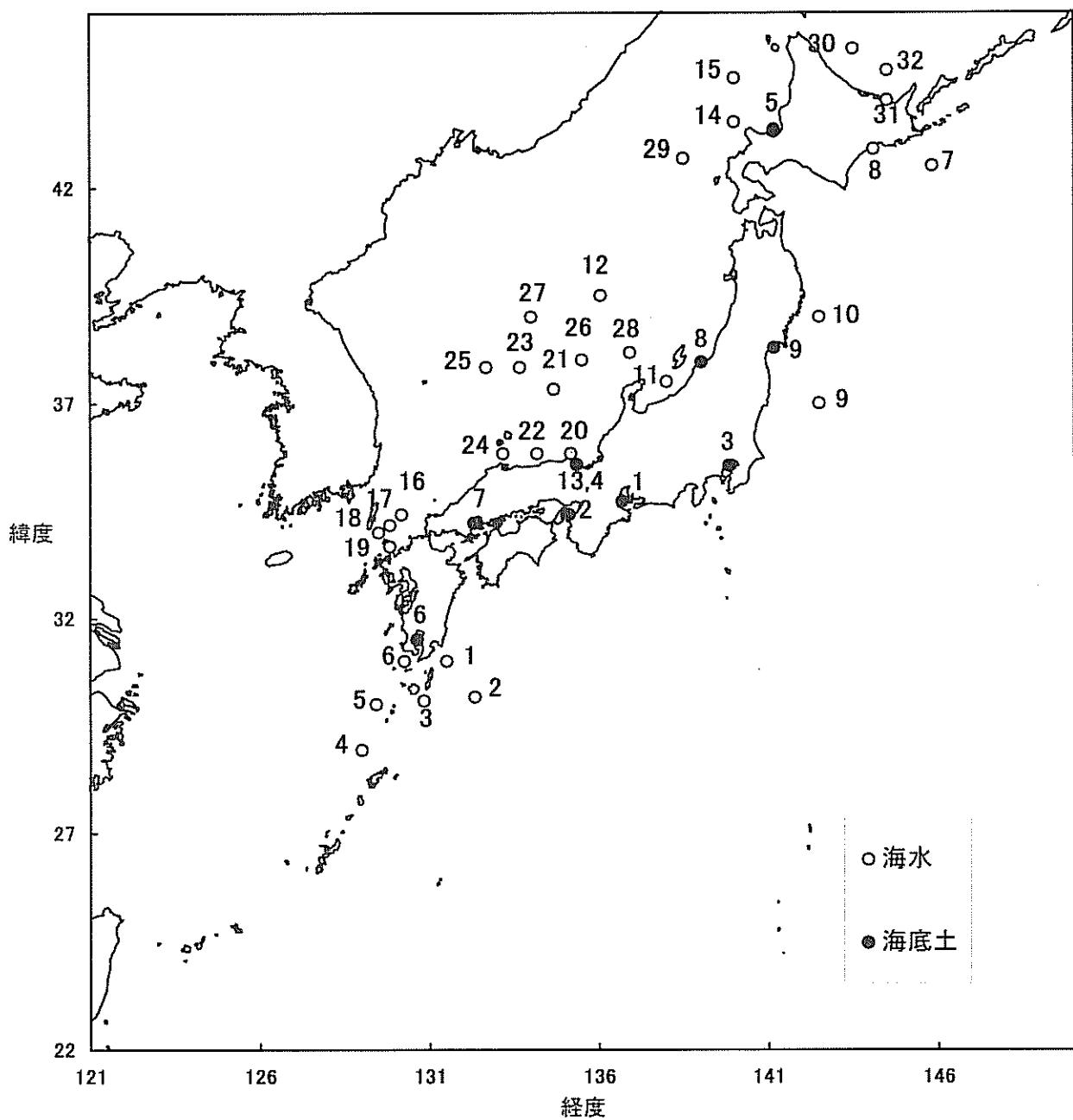


図1-1 日本近海放射能調査の試料採取点及び試料番号

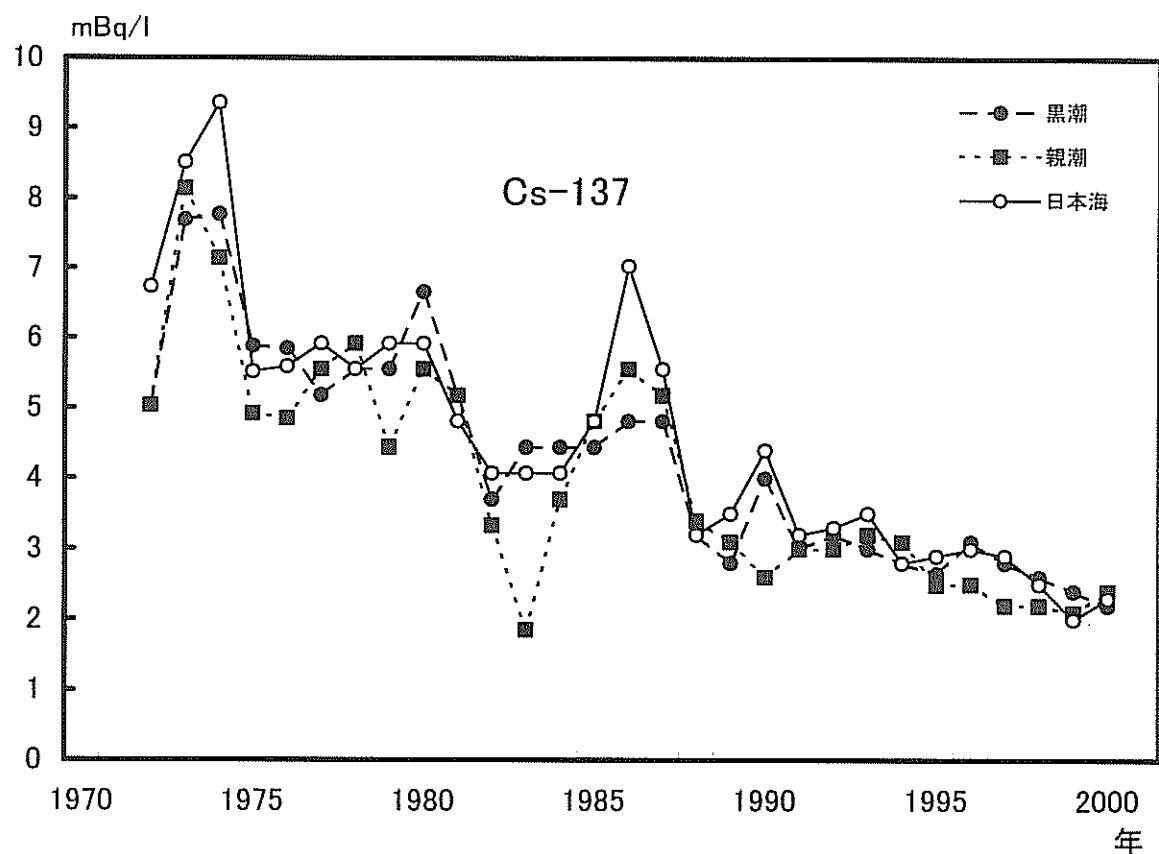
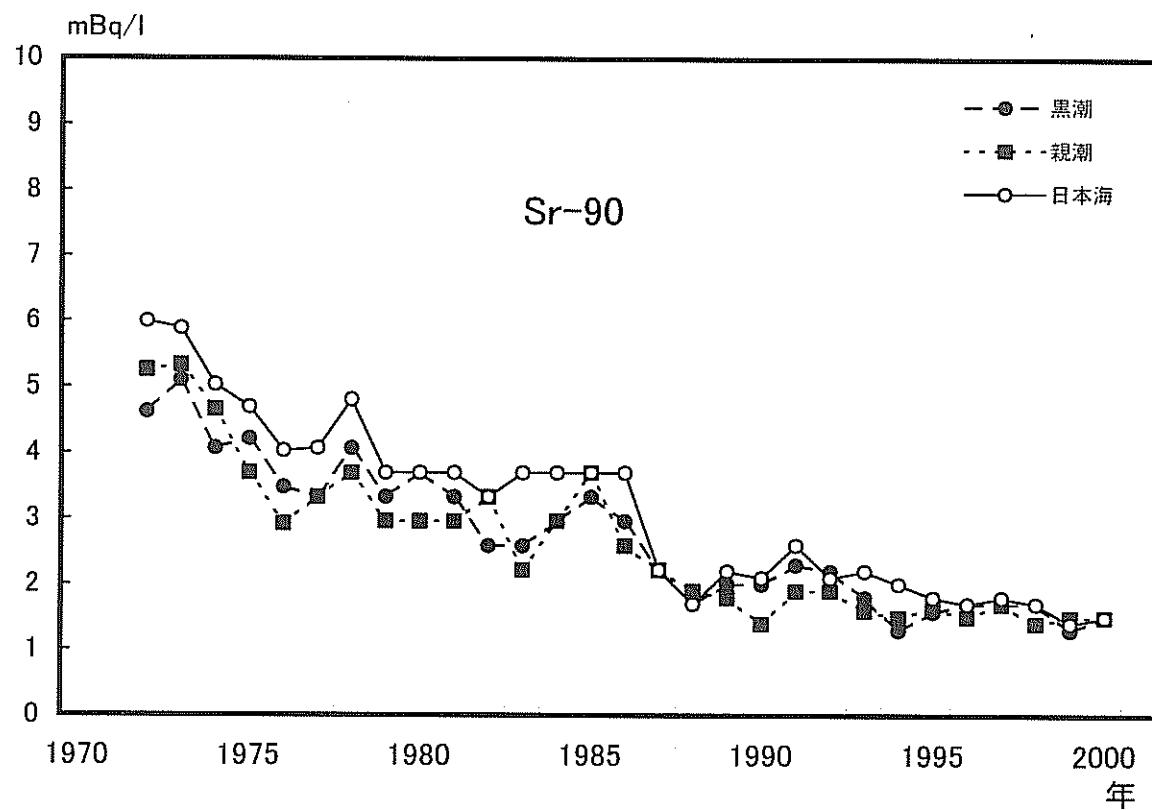


図1-2 日本近海海水中のSr-90, Cs-137の年平均濃度の経年変化

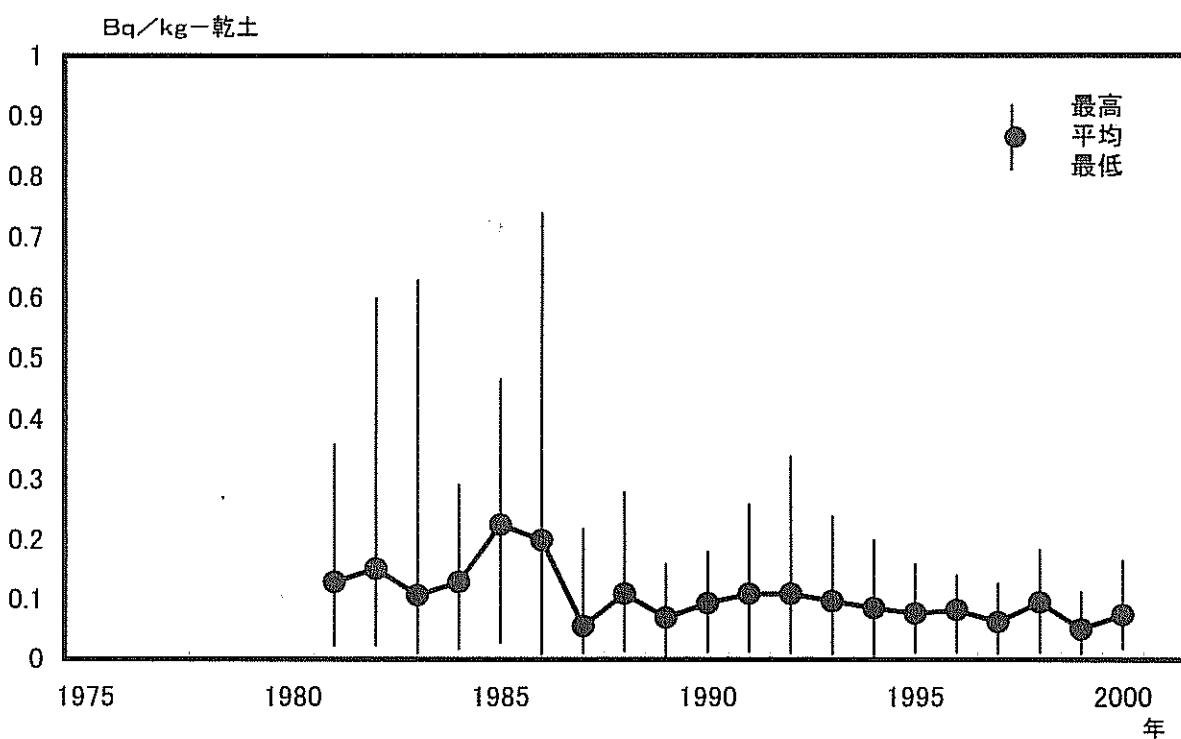


図1-3 日本近海海底土中のSr-90の経年変化

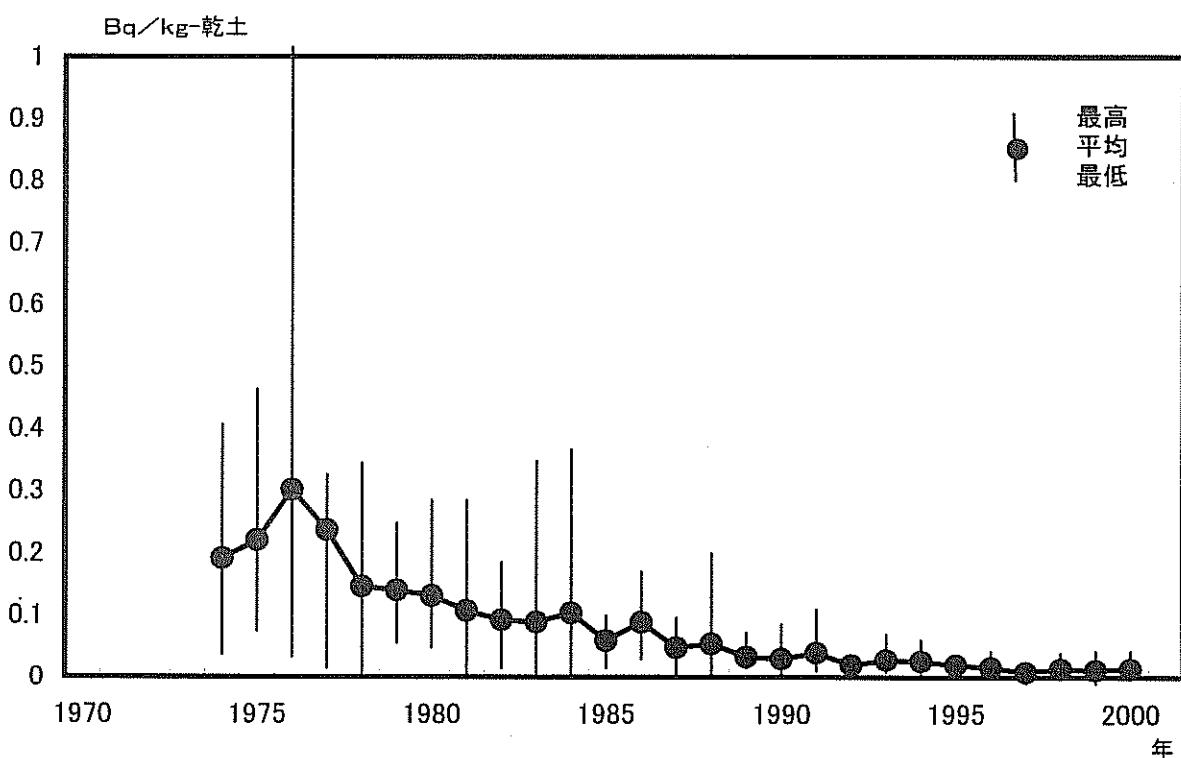


図1-4 日本近海海底土中のCo-60の経年変化

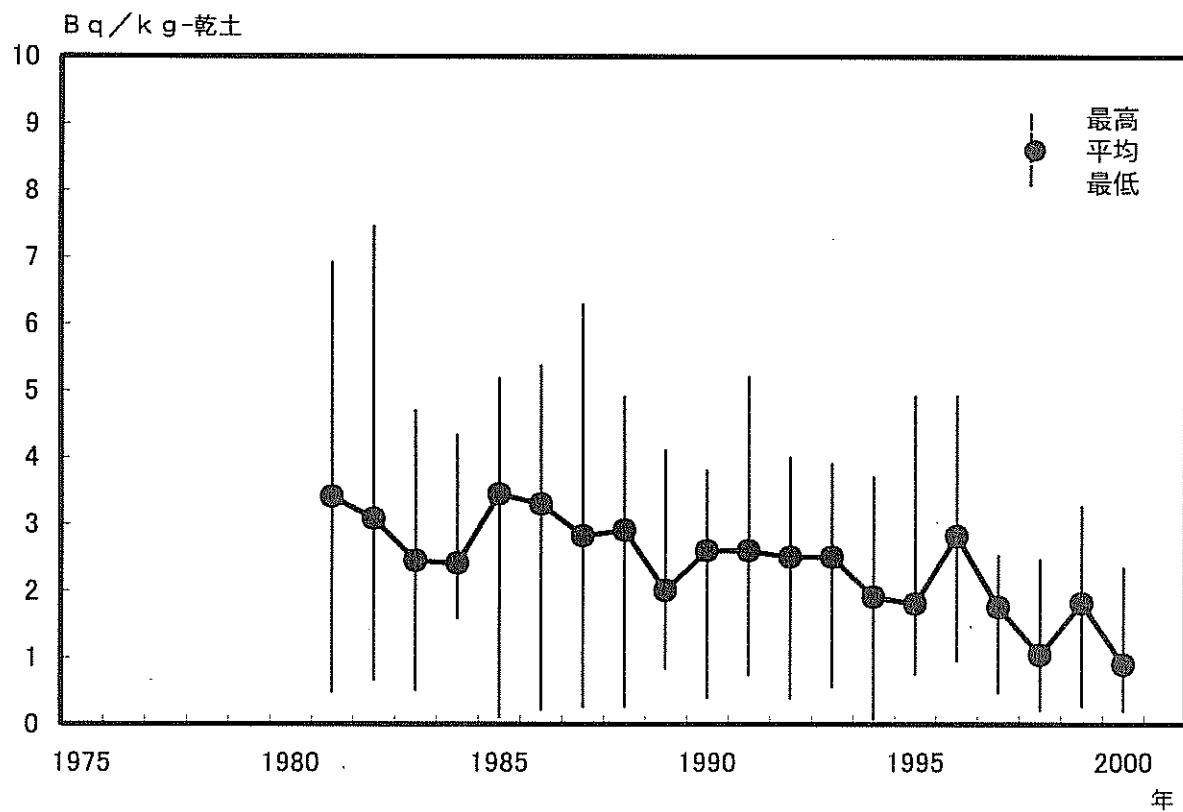


図 1-5 日本近海海底土中のCs-137の経年変化

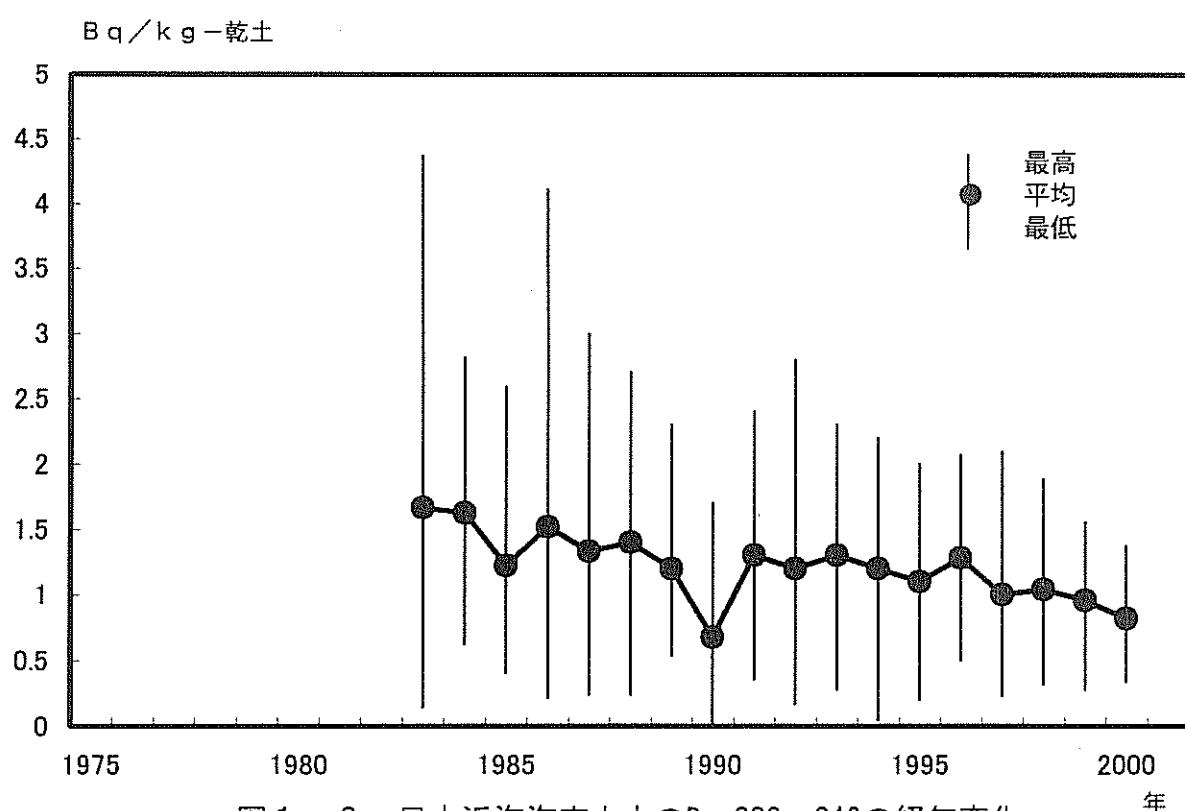


図 1-6 日本近海海底土中のPu-239、240の経年変化

2. 核燃料再処理施設周辺海域の放射能調査

2.1 調査の概要

この調査は、使用済み核燃料再処理施設（以下「再処理施設」という。）から海洋中に放出される低レベルの放射性廃液が周辺海域の環境放射能に及ぼす影響を把握するとともに同海域における被曝線量の評価に資するために、昭和49年（1974年）以来、行っているものである。今回の報告は平成12年（2000年）の調査結果をまとめたものである。

2.1.1 調査海域

再処理施設周辺海域（以下「常磐沖」という。）における試料の採取点は、図2に示とおりであり、各採取点（○印）に付した数字は測点番号である。

2.1.2 試料採取

試料の採取は4月24日～5月2日（第1回）及び11月13日～11月22日（第2回）に行った。

海水の採取深度は表面及び底層（一部の測点のみ）であり、採水は表面海水及び底層海水とともに自吸式揚水ポンプを用いて行った。採取量は20～40 ℥で採取後直ちに塩酸（2 ml／1 ℥海水）を加えた。

海底土はスミス・マッキンタイヤ型採泥器又はカンナ型採泥器（歯先2 cm）を用いて採取した。スミス・マッキンタイヤ型採泥器で採取した海底土は表層部の約2 cmを分け取った。

2.1.3 測点項目

測定にはゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線分光分析法を用い、一部の海水試料については放射化学分析を併用した。放射化学分析法で測定した核種は次のとおりである。

ストロンチウム-90 (Sr-90、半減期 29年)

また、海底土試料については粒度分析を併せて行った。

2.2 放射能測定

2.2.1 ガンマ線分光分析

(1) 試料の処理

海水（約20ℓ）は、りんモリブデン酸アンモニウム吸着法及び二酸化マンガン吸着法により放射性物質を濃縮し、径47mm、孔径 $0.45\mu\text{m}$ のメンブレンフィルタ上に捕集し、プラスチック容器に入れ計測試料とした。この場合、化学収率の補正は行っていない。

海底土は、乾燥、粉碎し、目開き2mmのふるいを通過したものを、プラスチック製円筒型容器（径4.5cm、高さ6.0cm、容量95.38cm³）に入れ、計測試料とした。

(2) 測 定

測定器は、SEIKO EG&G社製GEM-30185型ゲルマニウム半導体検出器を使用した。冷却容器及び検出器のしゃへいにはSGV-2-S型遮へい体を使用した。波高分析には7700型マルチチャネルアナライザを用い、チャネル幅は0.5keV/ch、計測エネルギー範囲は100keV～2,000keV、計測時間は海水80,000秒、海底土160,000秒とした。

核種の同定及び定量にはSEIKO EG&G社製MCAエミュレーションプログラム及びガンマ核種プログラムを用いた。

2.2.2 放射化学分析

分析法等は1.2（「日本近海における海水及び海底土の放射能調査」の放射能測定）と同様である。

2.3 粒度分析

採取した海底土試料を一定量取り、蒸留水を用いる「ふるい分け試験」により各粒径フラクションに分画し、それらの乾燥重量から粒径加積曲線図を描き、中央粒径及び各フラクションの質量百分率を求めた。

2.4 結 果

平成12年4～5月及び11月に採取した試料の測定結果を、海水については表2-1及び表2-3に、海底土については表2-2及び表2-4にそれぞれ示す。なお、海水の測定結果の（ ）内の値は放射化学分析で得た結果である。また、海水及び海底土の測定結果の＊印はガンマ線分光分析で当該核種が検出されなかったことを示す。

2.4.1 海 水

ガンマ線分光分析で検出されたCs-137の濃度は0.1~3.8mBq/ℓの範囲にあり、日本近海と同様なレベルである。

また放射化学分析で検出されたSr-90の濃度は0.58~1.6mBq/ℓの範囲にあり日本近海と同様なレベルである。

2.4.2 海底土

ガンマ線分光分析で検出されたCs-137の濃度は0.15~5.7Bq/kg - 乾土の範囲にあり、日本近海と同様なレベルである。

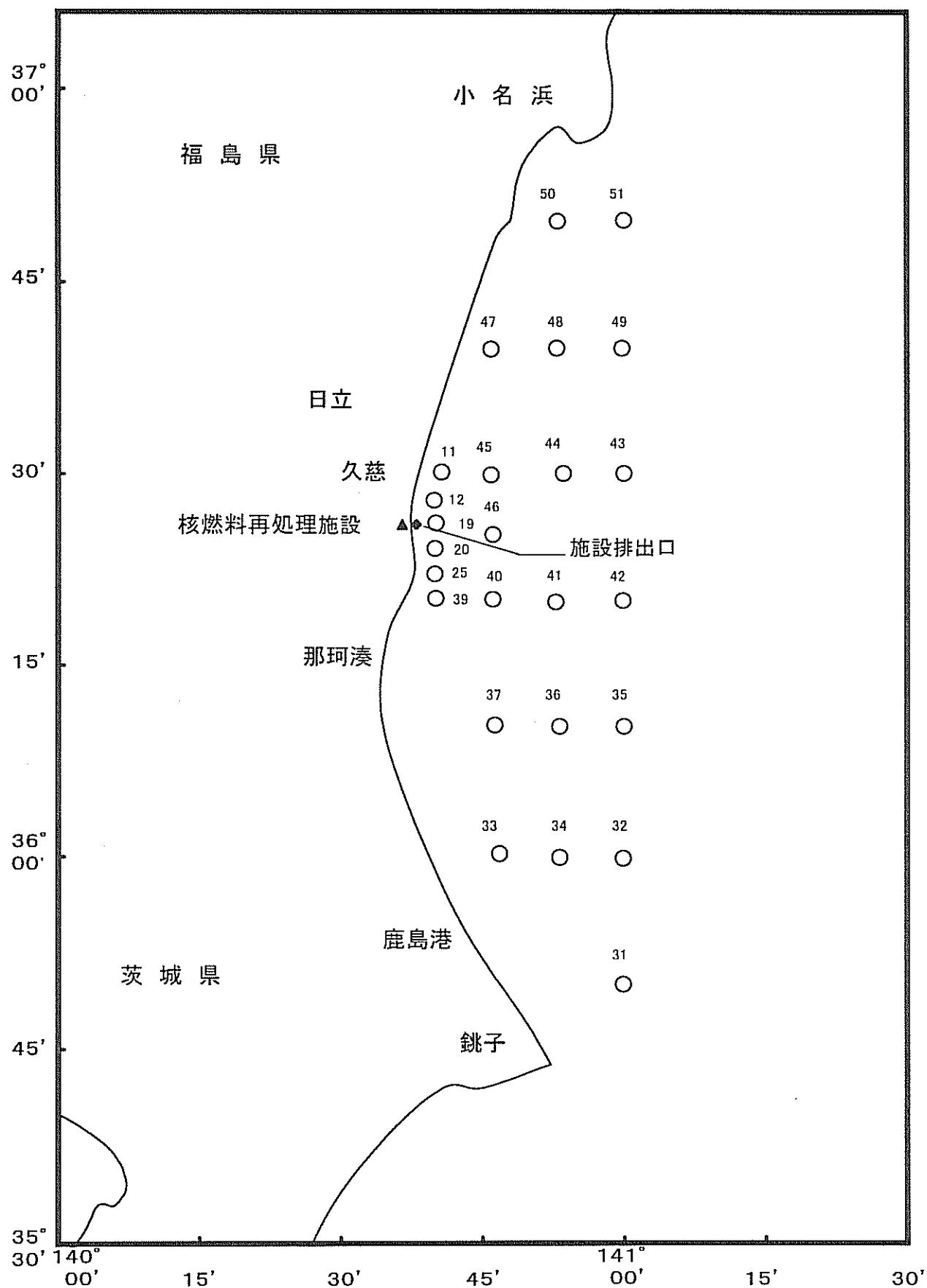


図2 常磐沖放射能調査の試料採取点及び測点番号

表2-1 常磐沖放射能調査結果 第1回海水 (平成12年4月)

測点番号	採取位置		採取年月日		水深(m)	採取深度(m)	水温(°C)	実用塩分	放射能濃度 (mBq/l)			90 Sr
	緯度(N)	経度(E)	採取年月日	採取年月日					137 Cs	106 Ru	144 Ce	
11	36- 30.0	140- 40.0	2000. 4.28	28	0	13.5	33.994	2.4 ± 0.7	*	*	*	(1.1 ± 0.2)
12	36- 28.0	140- 40.0	2000. 4.28	33	0	13.3	32.967	3.8 ± 0.7	*	*	*	(1.2 ± 0.2)
19	36- 26.0	140- 40.0	2000. 4.28	31	0	13.1	34.279	3.3 ± 6.4	*	*	*	(1.4 ± 0.2)
20	36- 24.0	140- 40.0	2000. 4.28	31	0	13.1	28.052	1.0 ± 0.7	*	*	*	(0.58 ± 0.24)
25	36- 22.0	140- 40.0	2000. 4.28	35	0	12.9	34.368	2.7 ± 0.6	*	*	*	(1.4 ± 0.3)
31	35- 50.0	141- 00.0	2000. 4.25	117	0	14.3	34.339	1.5 ± 0.6	*	*	*	(1.5 ± 0.2)
32	36- 00.0	141- 00.0	2000. 4.25	216	0	15.4	34.650	2.3 ± 0.6	*	*	*	
33	36- 00.0	140- 53.1	2000. 4.25	103	0	12.7	34.375	3.3 ± 0.8	*	*	*	
34	35- 59.9	140- 46.0	2000. 4.25	33	0	13.1	33.910	2.4 ± 0.7	*	*	*	
35	36- 09.9	141- 00.0	2000. 4.25	466	0	13.9	34.505	2.8 ± 0.6	*	*	*	
36	36- 10.0	140- 52.9	2000. 4.25	157	0	12.9	34.412	3.1 ± 0.6	*	*	*	
37	36- 09.9	140- 46.1	2000. 4.25	48	0	12.9	34.368	3.7 ± 0.7	*	*	*	
39	36- 19.9	140- 40.1	2000. 4.28	34	0	12.8	33.541	2.9 ± 0.6	*	*	*	
40	36- 20.0	140- 46.0	2000. 4.26	65	0	13.1	33.295	2.2 ± 0.7	*	*	*	
41	36- 20.0	140- 52.9	2000. 4.26	160	0	13.7	34.557	2.6 ± 0.6	*	*	*	
42	36- 20.0	140- 59.7	2000. 4.26	498	0	13.1	34.478	1.1 ± 0.6	*	*	*	
43	36- 30.0	141- 00.0	2000. 4.26	294	0	8.9	33.668	2.2 ± 0.6	*	*	*	
44	36- 30.0	140- 53.0	2000. 4.26	120	0	11.8	34.206	1.6 ± 0.7	*	*	*	
45	36- 30.0	140- 46.0	2000. 4.26	63	0	12.9	34.403	3.1 ± 0.6	*	*	*	
46	36- 25.1	140- 46.0	2000. 4.26	67	0	13.0	33.812	2.2 ± 0.7	*	*	*	
47	36- 40.0	140- 46.0	2000. 4.28	39	0	11.4	33.579	1.9 ± 0.7	*	*	*	
48	36- 40.0	140- 53.0	2000. 4.28	88	0	12.5	33.612	2.1 ± 0.6	*	*	*	
49	36- 40.0	141- 00.0	2000. 4.28	133	0	9.0	33.514	2.0 ± 0.7	*	*	*	
50	36- 50.0	140- 53.0	2000. 4.28	42	0	11.2	32.225	1.5 ± 0.6	*	*	*	
51	36- 50.0	141- 00.0	2000. 4.28	97	0	10.5	32.613	1.8 ± 0.6	*	*	*	

表2-2 常磐沖放射能調査結果－第1回海底土（平成12年4月）

測点番号	採取位置		採取年月日	水深 (m)	放射能濃度 (Bq/kg-乾燥土)			粒度分布 (%)			中央粒径 (μm)
	緯度 (N)	経度 (E)			¹³⁷ Cs	¹⁰⁶ Ru	¹⁴⁴ Ce	> 2mm	2~0.42mm	0.42~ 0.074mm	
11	36- 30.0	140- 40.0	2000. 4.28	28	0.50 ± 0.18	*	*	13.7	18.6	39.3	28.4
12	36- 28.0	140- 40.0	2000. 4.28	33	0.47 ± 0.15	*	*	15.9	40.8	38.8	4.5
19	36- 26.0	140- 40.0	2000. 4.28	31	0.15 ± 0.15	*	*	53.0	22.0	22.5	2.5
20	36- 24.0	140- 40.0	2000. 4.28	31	0.43 ± 0.11	*	*	37.9	50.1	7.4	4.6
25	36- 22.0	140- 40.0	2000. 4.28	35	0.97 ± 0.17	*	*	6.2	19.7	55.1	19.0
31	35- 50.0	141- 00.0	2000. 4.25	117	1.3 ± 0.3	*	*	0.0	1.1	35.8	63.1
32	36- 00.0	141- 00.0	2000. 4.25	216	1.2 ± 0.2	*	*	0.0	0.5	60.5	39.0
33	36- 00.0	140- 53.1	2000. 4.25	103	0.89 ± 0.17	*	*	0.3	4.6	76.6	18.5
34	35- 59.9	140- 46.0	2000. 4.25	33	0.25 ± 0.18	*	*	0.3	5.7	92.0	2.0
35	36- 09.9	141- 00.0	2000. 4.25	466	3.7 ± 0.3	*	*	0.0	0.2	11.6	88.2
36	36- 10.0	140- 52.9	2000. 4.25	157	0.96 ± 0.20	*	*	0.0	1.0	82.9	16.1
37	36- 09.9	140- 46.1	2000. 4.25	48	0.55 ± 0.17	*	*	0.0	0.5	97.2	2.3
39	36- 19.9	140- 40.1	2000. 4.28	34	5.7 ± 0.3	*	*	0.0	0.0	5.9	94.1
40	36- 20.0	140- 46.0	2000. 4.26	65	0.76 ± 0.18	*	*	12.3	25.5	58.3	3.9
41	36- 20.0	140- 52.9	2000. 4.26	160	1.4 ± 0.2	*	*	0.4	9.9	77.5	12.2
42	36- 20.0	140- 59.7	2000. 4.26	498	3.8 ± 0.3	*	*	0.0	0.0	6.9	93.1
43	36- 30.0	141- 00.0	2000. 4.26	294	1.4 ± 0.2	*	*	0.0	0.6	70.7	28.7
44	36- 30.0	140- 53.0	2000. 4.26	120	1.3 ± 0.2	*	*	0.0	6.7	69.2	24.1
45	36- 30.0	140- 46.0	2000. 4.26	63	1.7 ± 0.2	*	*	5.6	11.2	52.0	31.2
46	36- 25.1	140- 46.0	2000. 4.26	67	1.1 ± 0.2	*	*	11.1	24.9	50.4	13.6
47	36- 40.0	140- 46.0	2000. 4.28	39	0.77 ± 0.16	*	*	10.7	19.5	58.2	11.6
48	36- 40.0	140- 53.0	2000. 4.28	88	0.96 ± 0.20	*	*	0.3	1.2	46.5	52.0
49	36- 40.0	141- 00.0	2000. 4.28	133	1.6 ± 0.2	*	*	0.7	7.0	64.0	28.3
50	36- 50.0	140- 53.0	2000. 4.28	42	0.60 ± 0.17	*	*	0.0	0.2	59.1	40.7
51	36- 50.0	141- 00.0	2000. 4.28	97	1.4 ± 0.2	*	*	0.0	0.0	22.7	77.3

表2-3 常磐沖放射能調査結果 第2回海水 (平成12年11月)

測点番号	採取位置 緯度 (N)	採取位置 経度 (E)	採取年月日	水深 (m)	採取深度 (m)	水温 (°C)	寒用塩分	放射能濃度 (mBq/l)			
								^{137}Cs	^{106}Ru	^{144}Ce	^{90}Sr
11	36- 30.0	140- 40.1	2000.11.16	26	0	16.7	33.533	3.3 ± 0.6	*	*	(1.2 ± 0.2)
12	36- 28.0	140- 40.0	2000.11.15	33	0	17.3	33.576	2.5 ± 0.6	*	*	(1.4 ± 0.2)
19	36- 26.0	140- 40.0	2000.11.15	31	0	17.4	33.606	1.3 ± 0.7	*	*	(1.2 ± 0.2)
20	36- 24.0	140- 40.0	2000.11.15	31	29	17.2	33.643	1.8 ± 0.6	*	*	(1.5 ± 0.2)
25	36- 22.2	140- 40.1	2000.11.14	36	0	17.4	33.437	2.1 ± 0.6	*	*	(1.6 ± 0.2)
31	35- 49.9	140- 59.9	2000.11.14	114	0	20.3	33.649	1.2 ± 0.6	*	*	(1.5 ± 0.2)
32	36- 00.1	141- 00.0	2000.11.14	219	0	21.9	34.209	2.2 ± 0.7	*	*	
33	35- 00.1	140- 52.9	2000.11.14	103	0	20.5	34.119	2.9 ± 0.6	*	*	
34	36- 00.0	140- 46.1	2000.11.14	34	0	20.5	34.056	2.0 ± 0.6	*	*	
35	36- 10.0	141- 00.0	2000.11.14	468	0	18.6	34.126	1.5 ± 1.0	*	*	
36	36- 10.1	140- 53.2	2000.11.14	164	0	19.0	33.818	3.0 ± 1.0	*	*	
37	35- 10.1	140- 46.7	2000.11.14	52	0	19.9	33.871	1.5 ± 1.0	*	*	
39	36- 20.1	140- 40.0	2000.11.14	33	0	17.3	33.988	1.4 ± 1.0	*	*	
40	36- 19.9	140- 45.9	2000.11.14	62	0	17.7	33.681	2.7 ± 0.9	*	*	
41	36- 20.0	140- 52.9	2000.11.15	152	0	18.1	33.988	0.1 ± 1.2	*	*	
42	36- 20.0	141- 00.0	2000.11.14	506	0	19.7	33.554	0.2 ± 1.0	*	*	
43	36- 30.1	140- 59.9	2000.11.15	277	0	17.7	33.797	3.4 ± 1.0	*	*	
44	36- 30.1	140- 52.8	2000.11.15	118	0	17.6	33.765	2.2 ± 1.0	*	*	
45	36- 30.1	140- 46.1	2000.11.15	63	0	17.7	33.724	2.2 ± 1.0	*	*	
46	36- 25.0	140- 46.0	2000.11.15	67	0	17.7	33.685	2.3 ± 0.9	*	*	
47	36- 40.0	140- 45.9	2000.11.14	34	0	16.5	33.503	3.2 ± 0.6	*	*	
48	36- 39.9	140- 52.3	2000.11.16	82	0	17.2	33.712	0.6 ± 1.3	*	*	
49	36- 40.0	141- 00.0	2000.11.16	130	0	17.1	33.682	1.7 ± 0.6	*	*	
50	36- 50.2	140- 53.0	2000.11.16	41	0	16.5	33.419	1.9 ± 0.6	*	*	
51	36- 50.1	140- 00.2	2000.11.16	95	0	17.0	33.759	2.7 ± 0.6	*	*	

表2-4 常磐沖放射能調査結果 第2回海底土 (平成12年11月)

測番号	採取位置		採取年月日	水深 (m)	放射能濃度 (Bq/kg - 乾燥土)			粒度分布 (%)			中央粒径 (μm)
	緯度 (N)	経度 (E)			^{137}Cs	^{106}Ru	^{144}Ce	>2mm	2~0.42mm	0.42~	
11	36° 30.0	140° 40.1	2000.11.16	26	0.42 ± 0.21	*	*	0.7	5.5	32.2	61.6
12	36° 28.0	140° 40.0	2000.11.15	33	0.20 ± 0.15	*	*	40.2	48.8	9.3	1.7
19	36° 26.0	140° 40.0	2000.11.15	31	0.48 ± 0.20	*	*	7.0	4.1	42.1	46.8
20	36° 24.0	140° 40.0	2000.11.15	31	0.66 ± 0.18	*	*	3.8	21.0	50.9	24.3
25	36° 22.2	140° 40.1	2000.11.14	36	0.89 ± 0.16	*	*	21.4	21.6	33.0	24.0
31	35° 49.9	140° 59.9	2000.11.14	114	1.6 ± 0.2	*	*	0.0	0.6	35.5	63.9
32	36° 00.1	141° 00.0	2000.11.14	219	1.3 ± 0.2	*	*	0.0	1.0	69.2	29.8
33	36° 00.1	140° 52.9	2000.11.14	103	0.89 ± 0.17	*	*	0.0	0.9	76.7	22.4
34	36° 00.0	140° 46.1	2000.11.14	34	0.20 ± 0.15	*	*	0.0	0.9	97.4	1.7
35	36° 10.0	141° 00.0	2000.11.14	468	2.4 ± 0.3	*	*	0.0	0.0	13.3	86.7
36	36° 10.1	140° 53.2	2000.11.14	164	0.98 ± 0.18	*	*	0.0	0.8	78.1	21.1
37	35° 10.1	140° 46.7	2000.11.14	52	0.23 ± 0.15	*	*	18.9	13.9	66.8	0.4
39	36° 20.1	140° 40.0	2000.11.14	33	0.23 ± 0.14	*	*	68.5	19.0	12.0	0.5
40	36° 19.9	140° 45.9	2000.11.14	62	0.58 ± 0.15	*	*	20.1	46.7	32.0	1.2
41	36° 20.0	140° 52.9	2000.11.15	152	1.3 ± 0.2	*	*	0.1	7.8	81.1	11.0
42	36° 20.0	141° 00.0	2000.11.14	506	2.9 ± 0.3	*	*	1.3	0.3	4.8	93.6
43	36° 30.1	140° 59.9	2000.11.15	277	1.4 ± 0.2	*	*	0.0	0.3	78.1	21.6
44	36° 30.1	140° 52.8	2000.11.15	118	1.3 ± 0.2	*	*	0.2	6.7	62.1	31.0
45	36° 30.1	140° 46.1	2000.11.15	63	1.7 ± 0.2	*	*	1.0	5.3	64.0	29.7
46	36° 25.0	140° 46.0	2000.11.15	67	1.0 ± 0.2	*	*	21.8	35.8	34.6	7.8
47	36° 40.0	140° 45.9	2000.11.14	34	0.67 ± 0.19	*	*	2.1	19.3	60.7	17.9
48	36° 39.9	140° 52.3	2000.11.16	82	1.2 ± 0.2	*	*	0.0	0.5	38.0	61.5
49	36° 40.0	141° 00.0	2000.11.16	130	1.6 ± 0.2	*	*	1.0	6.5	64.9	27.6
50	36° 50.2	140° 53.0	2000.11.16	41	0.66 ± 0.18	*	*	0.0	0.1	62.3	37.6
51	36° 50.1	140° 00.2	2000.11.16	95	1.9 ± 0.2	*	*	0.0	0.2	25.3	74.5

3. 深海域（北太平洋西部海域・日本海・オホーツク海）における海水及び海底土の放射能調査・深海流の測定

この調査は、日本周辺における深海域の海水及び海底土中の人工放射性核種の立体分布を明らかにするとともに、その動態を把握するものである。

3.1 北太平洋西部海域の調査の概要

今回の報告は、北太平洋における平成12年（2000年）の調査結果を取りまとめたものである。

3.1.1 調査海域

試料の採取点は、図3-1に示すとおりである。

3.1.2 試料採取

試料採取は、本庁水路部所属の測量船で行った。

海水の採取深度は、0m、200m、500m、750m、1,000m、2,000m及び底上50mの7層である。表面海水は自吸式揚水ポンプを用い、他の層は100ℓ採水器（プラスチック製）を用いた。各層における採取量は約100ℓで、採取後直ちに塩酸（2mℓ／1ℓ海水）を加えた。なお、採水深度はピンガー（海洋電子社製PA-614型、12kHz）及び転倒式深度計を用いて決定した。

海底土は、スミス・マッキンタイヤ改良型採泥器（離合社製、重量約180kg、採取面積約0.1m²）を用いて採取し、表層部の約2cmを分け取った。

3.1.3 測定項目

各試料の測定核種は海水・海底土とともに次の4核種である

セシウム-137	(Cs-137、半減期	30年)
ストロンチウム-90	(Sr-90、半減期	29年)
コバルト-60	(Co-60、半減期	5.3年)
プルトニウム-239, 240	(Pu-239、半減期	24, 100年)
	(Pu-240、半減期	6, 560年)

3.2 放射能測定

各試料は、核種ごとに以下の化学処理を行い分離精製し、ベータ線計測あるいはアルファ線計測を行った。化学収率の補正は、Puでは添加したPu-242の計数値から、Srでは標準添加法を用いる原子吸光光度法及びイットリウム(Y)担体添加法で、その他の核種ではいずれも添加した担体の回収重量から求めた。

3.2.1 放射化学分析

(1) 海水

[Cs-137] 塩酸酸性の海水試料にりんモリブデン酸アンモニウムを加えCsを吸着させ、ろ別した（上澄み液、ろ液はSr-90, Co-60及びPu-239, 240の分析に用いる）。このりんモリブデン酸アンモニウムを水酸化ナトリウム溶液で溶解し、Duolite C-3を用いる陽イオン交換法で分離精製の後、これを塩化白金酸塩として沈殿させ、ろ別し、乾燥して計測試料とした。

[Sr-90] Cs-137の分析中に得られた上澄み液、ろ液に炭酸ナトリウムを加え、Sr, Co及びPuを沈殿させ、ろ別した。沈殿物は硝酸で溶解し、その溶液を煮沸して炭酸ガスを除いた後、水酸化ナトリウムを加え弱塩基性としてPu, Coを水酸化マグネシウムと共に沈させ、ろ別した（沈殿物はPu-239, 240, Co-60の分析に用いる）。

ろ液は酸性とした後、Y担体を加え2週間以上放置する。Sr-90と放射平衡にあるY-90(イットリウム-90)を水酸化物として沈殿させ、ろ別した後、沈殿物を塩酸で溶解し、りん酸水素ビス(2-エチルヘキシル)抽出法、陽イオン交換法によってYを分離精製し、これをしづう酸塩として沈殿させ、ろ別し乾燥して計測試料とした。

[Pu-239, 240] Sr-90の分析中に得られた沈殿物を硝酸で溶解し、溶解液を蒸発濃縮した後、熱8.4M硝酸に溶解し、過酸化水素で処理し、陰イオン交換樹脂カラムに通しPu(IV)を吸着させた。8.4M硝酸及び10M塩酸で樹脂を洗浄後、よう化アンモニウム-塩酸溶液でPu(IV)をPu(III)に還元し溶離した。分離精製した試料はステンレススチール板上に電着して計測試料とした。

[Co-60] Pu-239, 240の分析中の陰イオン交換カラムからの8.4M硝酸流出液に水酸化ナトリウム溶液を加えCoを沈殿させた。得られた沈殿物を8M塩酸に溶解して陰イオン交換樹脂に通しCoを吸着させ、4M塩酸で溶離した後、テトラヒドロフラン-塩酸混液を用いる陽イオン交換法により分離精製し、銅板上に電着して計測試料とした。

(2) 海底土

化学処理に先立ち、乾燥、粉碎し、目開き2mmのふるいを通過した部分を分析試料とした。

Pu-239, 240の分析には乾土50gを、Cs-137には100gを、Sr-90及びCo-60には300gを用いた。

分析操作は1.2（「日本近海における海水及び海底土の放射能調査」の放射能測定）と同じである。

3.2.2 測 定

γ -90のベータ線計測には4π低バックグラウンドガスフローカウンタ（アロカ製LBC-3型）を、また、Cs-137及びCo-60のベータ線計測には低バックグラウンドベータ線スペクトロメータ（富士電機製ピコベータ）をそれぞれ用いた。

Pu-239, 240のアルファ線スペクトル計測には α 線スペクトロメータ（SEIKO EG&G社製、OCTPL-U0450）を用いた。

3.3 結 果

平成12年（2000年）に採取した試料の測定結果を海水及び海底土についてそれぞれ表3-1及び3-2に示す。測定値には計数誤差を付記した。

3.3.1 海 水

海水中のPu-239, 240、Cs-137及びSr-90の鉛直分布を図3-2に示す。Cs-137及びSr-90は表面では日本近海海水と同レベルで、500m層で最大となり、下層では1,000m付近まで急減し、2,000m以深では非常に低いレベルとなっている。Pu-239, 240は1,000m付近に極大層を持ち、それ以浅・以深では同レベルであり、Cs-137及びSr-90とは異なった変化を見せている。

Co-60はすべての層で非常に低い値であり計数誤差の3倍を越えるものはなかった。

3.3.2 海底土

日本近海（沿岸域）と比較すると何れの核種も低いレベルにあり、Co-60は検出されていない。

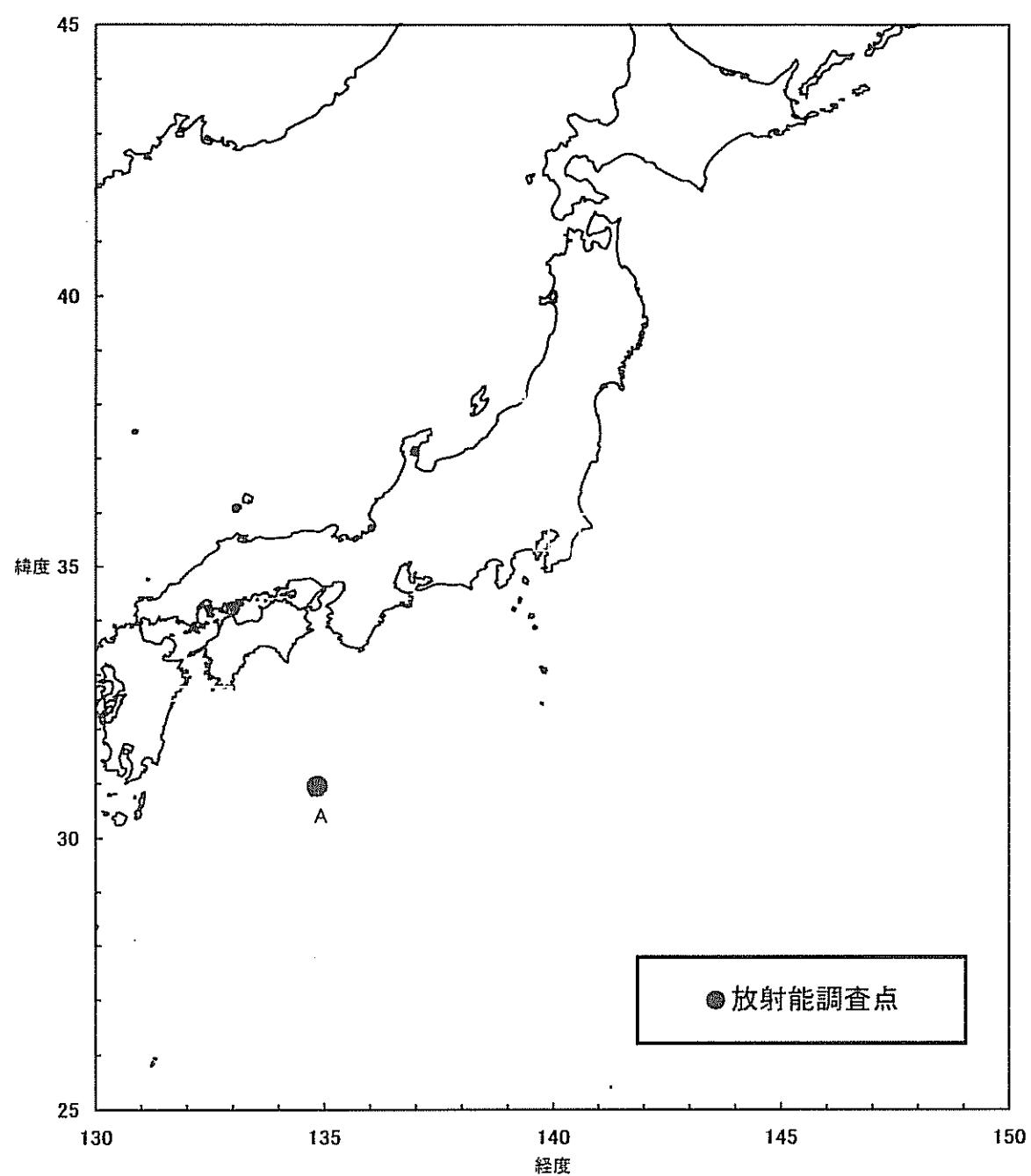


図3-1 北太平洋西部海域における放射能調査の試料採取点

表3-1 北太平洋西部海域放射能調査結果－海水 (平成12年)

測点	採取位置		採取年月日	水深 (m)	採取深度 (m)	水温 (°C)	実用塩分	放射能濃度 (mBq/l)			
	緯度 (N)	経度 (E)						$^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs	^{90}Sr	^{60}Co
A	30-56.9	134-50.9	2000.9.1	4,247	0	28.3	34.492	0.007 ± 0.001	2.23 ± 0.06	1.36 ± 0.04	0.01 ± 0.03
				192	19.3	34.825	0.006 ± 0.001	2.28 ± 0.06	1.28 ± 0.02	-0.01 ± 0.03	-0.01 ± 0.03
				480	14.8	34.609	0.012 ± 0.001	2.91 ± 0.07	1.85 ± 0.03	-0.01 ± 0.03	-0.01 ± 0.03
				720	9.1	34.258	0.030 ± 0.002	1.98 ± 0.06	1.40 ± 0.03	0.01 ± 0.03	0.01 ± 0.03
				958	5.5	34.253	0.041 ± 0.003	0.96 ± 0.05	0.64 ± 0.02	0.09 ± 0.03	0.09 ± 0.03
				1,930	2.3	34.563	0.012 ± 0.002	0.13 ± 0.03	0.07 ± 0.02	-0.02 ± 0.03	-0.02 ± 0.03
				4,260	1.5	34.682	0.019 ± 0.002	0.07 ± 0.03	0.05 ± 0.01	0.00 ± 0.03	0.00 ± 0.03

表3-2 北太平洋西部海域放射能調査結果－海底土 (平成12年)

測点	採取位置		採取年月日	水深 (m)	試料厚 (cm)	放射能濃度 (Bq/kg-乾土)			
	緯度 (N)	経度 (E)				$^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs	^{90}Sr	^{60}Co
A	30-56.9	134-50.9	2000.9.1	4,247	0~2	0.146 ± 0.011	1.06 ± 0.05	0.19 ± 0.01	0.029 ± 0.009

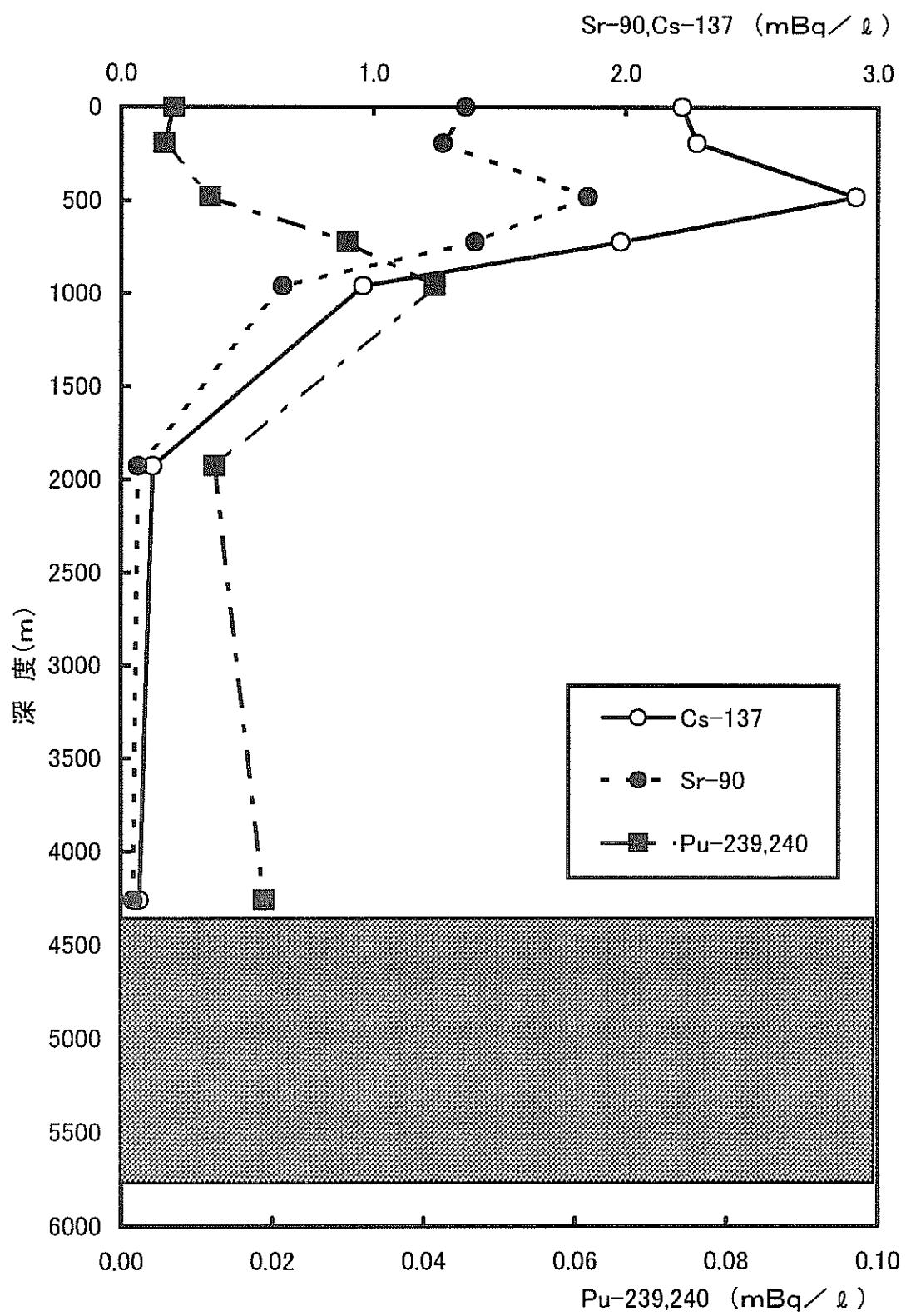


図3-2 測点Aにおける海水中の各核種の鉛直分布

3.4 日本海・オホーツク海の調査の概要

この調査は、旧ソ連・ロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄に関連して、日本海及びオホーツク海の海水・海底土中の人工放射性核種の分布状況を明らかにするとともに、その動態を把握するものである。また、放射性物質の拡散に関する基礎資料を得るために、日本海北部において深海流の連續観測を実施している。

今回の報告は、平成12年（2000年）の調査結果を取りまとめたものである。

3.4.1 調査海域

試料の採取点は図3-4に示すとおりである。なお、採取点に付した数字は測点番号である。

3.4.2 試料採取

試料採取は、本庁水路部所属の測量船で行った。

採取深度は、0m、200m、500m、750m、1,000m、2,000m及び底上50m層である。表面海水は自吸式揚水ポンプを用い、他の層は100ℓ採水器（プラスチック製）を用いた。各層における採取量は約100ℓで、採取後直ちに塩酸（2ml／1ℓ海水）を加えた。なお、採水深度はピンガー（海洋電子社製PA-614型、12kHz）及び転倒式深度計を用いて決定した。

海底土は、スミス・マッキンタイヤ改良型採泥器（離合社製、重量約180kg、採取面積約0.1m²）を用いて採取し、表層部の約2cmを分け取った。

3.4.3 測定項目

各試料の測定核種は海水・海底土とともに次の4核種である。

セシウム-137	(Cs-137、半減期	30年)
ストロンチウム-90	(Sr-90、半減期	29年)
コバルト-60	(Co-60、半減期	5.3年)
プルトニウム-239, 240	(Pu-239、半減期	24, 100年)
	(Pu-240、半減期	6, 560年)

3.5 放射能測定

各核種ごとの放射線計測は海水、海底土とともに3.2深海域（北太平洋西部海域）の計測と同様である。

3.5.1 放射化学分析

海水、海底土とともに3.2.1深海域（北太平洋西部海域）の放射化学分析の分析操作と同様である。

3.5.2 測定

海水、海底土とともに3.2.2深海域（北太平洋西部海域）の測定に使用した機器と同様である。

3.6 結果

平成12年（2000年）に採取した試料の測定結果を海水及び海底土についてそれぞれ表3-3及び3-4に示す。測定値には計数誤差を付記した。

3.6.1 海水

N0-1～8におけるPu-239, 240、Cs-137及びSr-90の鉛直分布を図3-4～11に示す。

各測点の鉛直分布は各核種とも例年と同様の分布を示し、Cs-137は250m付近で極大となり、下層では2,000m付近まで直線的に減少し、それ以深では非常に低いレベルとなっている。Sr-90は、Cs-137と概ね同様な変化を示すが極大値を持つ傾向は小さい。

また、Pu-239, 240は、一部の測点を除いて500m～1,000m付近に極大層がみられる。

Co-60はすべての層で非常に低い値であり計数誤差の3倍を越えるものはなかった。

3.6.2 海底土

N0-3及び8では他の測点と比較して低い値がみられるが、その他の測点ではいずれの核種とも北太平洋西部海域及び日本近海と同レベルの値である。

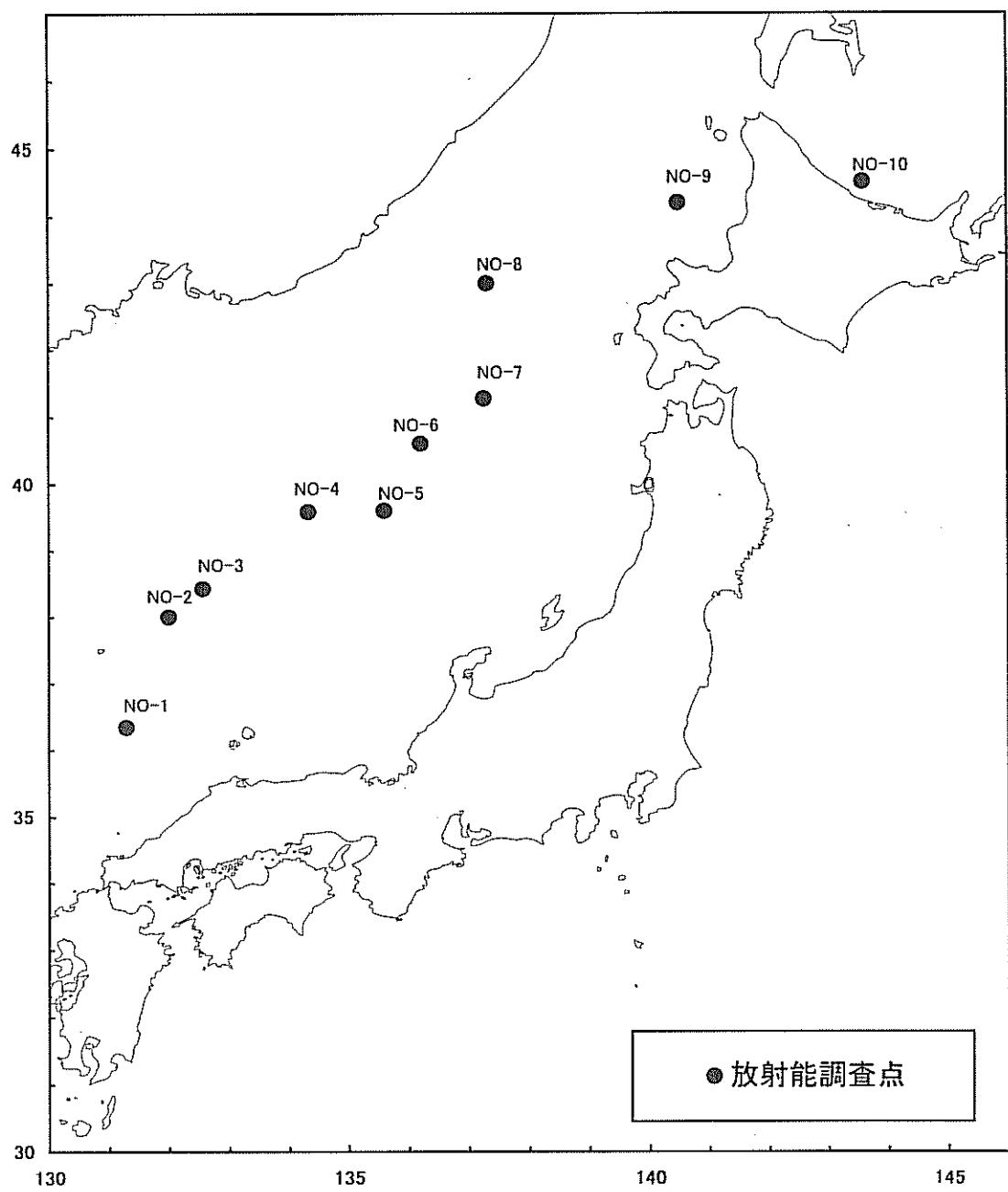


図3-3 日本海・オホーツク海における放射能調査の試料採取点
及び測点番号

表3-3 日本海の放射能調査結果一海水（平成12年）

(供試量：約100 ℥)

測点番号			採取位置			採取年月日			水深(m)		
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)		$^{239,240}\text{Pu}$	放射能濃度 (mBq/l)			^{60}Co	^{137}Cs	^{90}Sr
	水温 (°C)	実用 塩分	溶存 酸素 (m l/l)	緯度(N)	経度(E)	131-29.1	2000.8.27	1,976			
0	26.3	32.266	5.12	0.008 ± 0.001	0.008 ± 0.026	2.20 ± 0.06	2.30 ± 0.04				
190	1.37	34.067	5.53	0.027 ± 0.002	0.054 ± 0.052	2.32 ± 0.06	1.45 ± 0.03				
480	0.44	34.073	5.20	0.029 ± 0.002	0.004 ± 0.025	2.00 ± 0.06	1.24 ± 0.03				
720	0.26	34.068	5.28	0.037 ± 0.003	0.044 ± 0.028	1.56 ± 0.06	1.00 ± 0.02				
962	0.20	34.066	5.20	0.032 ± 0.002	-0.031 ± 0.027	1.24 ± 0.05	0.87 ± 0.02				
1,926	0.15	34.066	4.78	0.030 ± 0.003	-0.040 ± 0.028	0.38 ± 0.04	0.18 ± 0.01				

測点番号			採取位置			採取年月日			水深(m)		
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)		$^{239,240}\text{Pu}$	放射能濃度 (mBq/l)			^{60}Co	^{137}Cs	^{90}Sr
	水温 (°C)	実用 塩分	溶存 酸素 (m l/l)	緯度(N)	経度(E)	132-00.2	2000.8.26	1,750			
0	24.5	33.261	5.38	0.006 ± 0.001	0.009 ± 0.027	2.19 ± 0.06	1.76 ± 0.04				
190	5.10	34.085	6.13	0.015 ± 0.002	0.035 ± 0.041	2.26 ± 0.07	1.49 ± 0.03				
469	0.63	34.073	5.38	0.029 ± 0.003	0.025 ± 0.026	2.04 ± 0.06	1.23 ± 0.02				
684	0.35	34.069	5.37	0.041 ± 0.003	0.012 ± 0.029	1.75 ± 0.06	1.27 ± 0.03				

測点番号			採取位置			採取年月日			水深(m)		
			緯度(N)		経度(E)						
NO-3			38-44.1		132-56.4	2000.8.25			2,849		
採取深度 (m)	水温 (°C)	实用 鹽分	溶存 酸素 (m l/l)	239,240 Pu	60 Co	放射能濃度 (mBq/l)			90 Sr		
0	25.5	33.470	4.87	0.006 ± 0.001	0.002 ± 0.030	2.22 ± 0.06			1.72 ± 0.03		
189	1.23	34.062	5.90	0.024 ± 0.002	0.017 ± 0.032	2.28 ± 0.07			1.51 ± 0.03		
473	0.52	34.073	5.37	0.029 ± 0.003	0.001 ± 0.029	2.02 ± 0.06			1.17 ± 0.03		
715	0.32	34.071	5.20	0.029 ± 0.003	0.043 ± 0.027	1.61 ± 0.06			0.91 ± 0.03		
952	0.22	34.069	5.13	0.037 ± 0.003	0.060 ± 0.030	1.31 ± 0.06			0.87 ± 0.02		
1,919	0.16	34.067	4.99	0.031 ± 0.003	0.022 ± 0.027	0.39 ± 0.04			0.28 ± 0.02		
2,799	0.21	34.066	4.92	0.027 ± 0.003	0.008 ± 0.026	0.36 ± 0.07			0.16 ± 0.01		

測点番号			採取位置			採取年月日			水深(m)		
			緯度(N)		経度(E)						
NO-4			39-59.9		134-33.5	2000.8.24			1,307		
採取深度 (m)	水温 (°C)	实用 鹽分	溶存 酸素 (m l/l)	239,240 Pu	60 Co	放射能濃度 (mBq/l)			90 Sr		
0	25.1	33.974	5.07	0.007 ± 0.002	-0.001 ± 0.030	2.19 ± 0.06			1.58 ± 0.03		
191	1.56	34.106	6.32	0.019 ± 0.002	0.008 ± 0.026	2.14 ± 0.06			1.42 ± 0.03		
480	0.50	34.070	5.18	0.029 ± 0.004	0.004 ± 0.027	1.94 ± 0.06			1.14 ± 0.02		
721	0.29	34.070	5.15	0.034 ± 0.002	-0.040 ± 0.035	1.59 ± 0.06			1.04 ± 0.03		
1,257	0.17	34.068	4.99	0.030 ± 0.003	-0.019 ± 0.027	0.91 ± 0.07			0.62 ± 0.03		

測点番号			採取位置		採取年月日		水深(m)	
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)					
	水温 (°C)	実用 塩分	溶存 酸素 (mℓ/ℓ)		放射能濃度 $^{239,240}\text{Pu}$	^{60}Co	^{137}Cs	^{90}Sr
0	25.2	33.733	4.91	0.005 ± 0.001	0.025 ± 0.034	2.36 ± 0.07	1.42 ± 0.03	
192	1.44	34.065	5.77	0.023 ± 0.002	0.026 ± 0.028	2.15 ± 0.06	1.76 ± 0.03	
483	0.47	34.072	5.18	0.028 ± 0.003	-0.010 ± 0.026	1.84 ± 0.06	1.28 ± 0.03	
725	0.29	34.069	5.15	0.036 ± 0.003	0.006 ± 0.029	1.53 ± 0.06	0.92 ± 0.02	
966	0.22	34.068	5.07	0.032 ± 0.003	0.040 ± 0.029	1.22 ± 0.05	0.75 ± 0.02	
1,372	0.16	34.076	4.98	0.029 ± 0.004	0.016 ± 0.028	0.72 ± 0.04	0.51 ± 0.02	

測点番号			採取位置		採取年月日		水深(m)	
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)					
	水温 (°C)	実用 塩分	溶存 酸素 (mℓ/ℓ)		放射能濃度 $^{239,240}\text{Pu}$	^{60}Co	^{137}Cs	^{90}Sr
0	24.9	33.684	5.07	0.002 ± 0.001	-0.036 ± 0.026	2.22 ± 0.06	1.77 ± 0.03	
192	1.07	34.076	6.77	0.019 ± 0.006	0.029 ± 0.026	2.37 ± 0.07	1.42 ± 0.03	
483	0.54	34.073	5.80	0.018 ± 0.009	0.085 ± 0.030	2.06 ± 0.06	1.12 ± 0.03	
718	0.35	34.070	5.23	0.058 ± 0.015	-0.021 ± 0.031	1.64 ± 0.06	0.96 ± 0.03	
966	0.24	34.068	5.18	0.036 ± 0.003	0.028 ± 0.029	1.41 ± 0.05	0.96 ± 0.03	
1,940	0.16	34.066	4.89	0.029 ± 0.003	-0.014 ± 0.032	0.44 ± 0.04	0.29 ± 0.02	
3,350	0.25	34.067	4.95	0.027 ± 0.003	-0.009 ± 0.029	0.27 ± 0.04	0.20 ± 0.02	

測点番号	採取位置			採取年月日	水深(m)
	緯度(N)	経度(E)			
NO-7	41-26.7	137-22.7	放射能濃度 (mBq/ℓ)		
採取深度(m)	水温(℃)	実用 塩分	溶存 酸素 (m ℓ / ℓ)	$^{239,240}\text{Pu}$	^{60}Co
0	24.7	33.742	5.04	0.006 ± 0.001	0.020 ± 0.030
191	1.56	34.092	6.75	0.015 ± 0.002	0.001 ± 0.032
476	0.71	34.077	5.68	0.026 ± 0.002	-0.017 ± 0.031
714	0.40	34.072	5.23	0.033 ± 0.003	0.011 ± 0.032
957	0.27	34.070	5.27	0.040 ± 0.003	0.036 ± 0.034
1,928	0.16	34.068	4.98	0.034 ± 0.003	-0.019 ± 0.030
3,592	0.28	34.068	4.94	0.024 ± 0.002	-0.013 ± 0.041
					0.25 ± 0.04
					0.14 ± 0.02

測点番号	採取位置			採取年月日	水深(m)
	緯度(N)	経度(E)			
NO-8	42-59.9	137-30.2	放射能濃度 (mBq/ℓ)		
採取深度(m)	水温(℃)	実用 塩分	溶存 酸素 (m ℓ / ℓ)	$^{239,240}\text{Pu}$	^{60}Co
0	24.3	33.805	5.20	0.004 ± 0.001	-0.044 ± 0.026
191	1.12	34.074	6.55	0.020 ± 0.002	-0.016 ± 0.030
482	0.61	34.080	1.95	0.025 ± 0.002	0.007 ± 0.036
724	0.36	34.070	5.20	0.036 ± 0.004	0.006 ± 0.027
969	0.24	34.068	5.15	0.038 ± 0.003	0.014 ± 0.032
1,944	0.16	34.070	4.94	0.032 ± 0.003	-0.030 ± 0.029
3,635	0.28	34.068	4.99	0.023 ± 0.002	-0.001 ± 0.028
					0.16 ± 0.04
					0.16 ± 0.02

测点番号			採取位置			採取年月日	水深(m)
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)				
NO-9		44-19.6		140-50.2		2000.5.3	258
採取深度 (m)	水温 (°C)	实用 鹽分	溶存 酸素 (m g/g)	放射能濃度 ^{60}Co	放射能濃度 ^{137}Cs	^{90}Sr	
0	7.5	33.307	7.31	0.005 ± 0.001	-0.016 ± 0.030	2.28 ± 0.07	1.02 ± 0.02
225	1.72	34.118	6.00	0.024 ± 0.002	-0.065 ± 0.031	2.16 ± 0.06	1.45 ± 0.03

测点番号			採取位置			採取年月日	水深(m)
採取深度 (m)	緯度(N)		経度(E)				
NO-10		44-50.0		144-00.0		2000.5.5	187
採取深度 (m)	水温 (°C)	实用 鹽分	溶存 酸素 (m g/g)	放射能濃度 ^{60}Co	放射能濃度 ^{137}Cs	^{90}Sr	
0	1.6	32.241	8.77	0.003 ± 0.001	0.005 ± 0.040	1.44 ± 0.06	1.02 ± 0.03
147	-1.54	33.062	7.69	0.005 ± 0.001	-0.069 ± 0.033	1.40 ± 0.06	0.79 ± 0.02

表3-4 日本海の放射能調査結果－海底土 (平成12年)

(供試量： ^{238}Pu , ^{240}Pu ; 50g, ^{134}Cs ; 100g, ^{90}Sr , ^{90}Co ; 300g)

測点番号	採取位置		採取年月日	水深(m)	試料厚(cm)	放射能濃度(Bq/kg-乾土)		
	緯度(N)	経度(E)				$^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs	^{90}Sr
NO-1	36-35.8	131-29.0	2000.8.27	1,996	0~2	1.059 ± 0.053	2.45 ± 0.06	0.72 ± 0.01
NO-2	37-59.8	132-00.0	2000.8.26	1,750	0~2	0.677 ± 0.071	2.32 ± 0.06	0.45 ± 0.01
NO-3	38-45.2	132-56.9	2000.8.25	2,872	0~2	0.043 ± 0.008	0.16 ± 0.03	0.03 ± 0.01
NO-4	40-00.3	134-33.2	2000.8.24	1,287	0~2	0.494 ± 0.025	2.76 ± 0.06	0.47 ± 0.01
NO-5	40-00.4	136-00.5	2000.8.23	1,444	0~2	0.438 ± 0.030	1.89 ± 0.06	0.35 ± 0.01
NO-6	41-00.4	136-19.4	2000.8.22	3,389	0~2	0.442 ± 0.022	2.74 ± 0.06	0.56 ± 0.01
NO-7	41-26.0	137-21.9	2000.8.21	3,660	0~2	0.393 ± 0.043	2.09 ± 0.06	0.60 ± 0.01
NO-8	42-59.9	137-29.9	2000.8.20	3,703	0~2	0.015 ± 0.003	0.02 ± 0.03	0.01 ± 0.00
NO-9	44-19.6	140-50.2	2000.5.3	258	0~2	1.800 ± 0.104	3.15 ± 0.07	0.50 ± 0.01
NO-10	44-50.0	144-00.0	2000.5.5	187	0~2	1.179 ± 0.065	2.90 ± 0.07	0.19 ± 0.01
								-0.003 ± 0.008

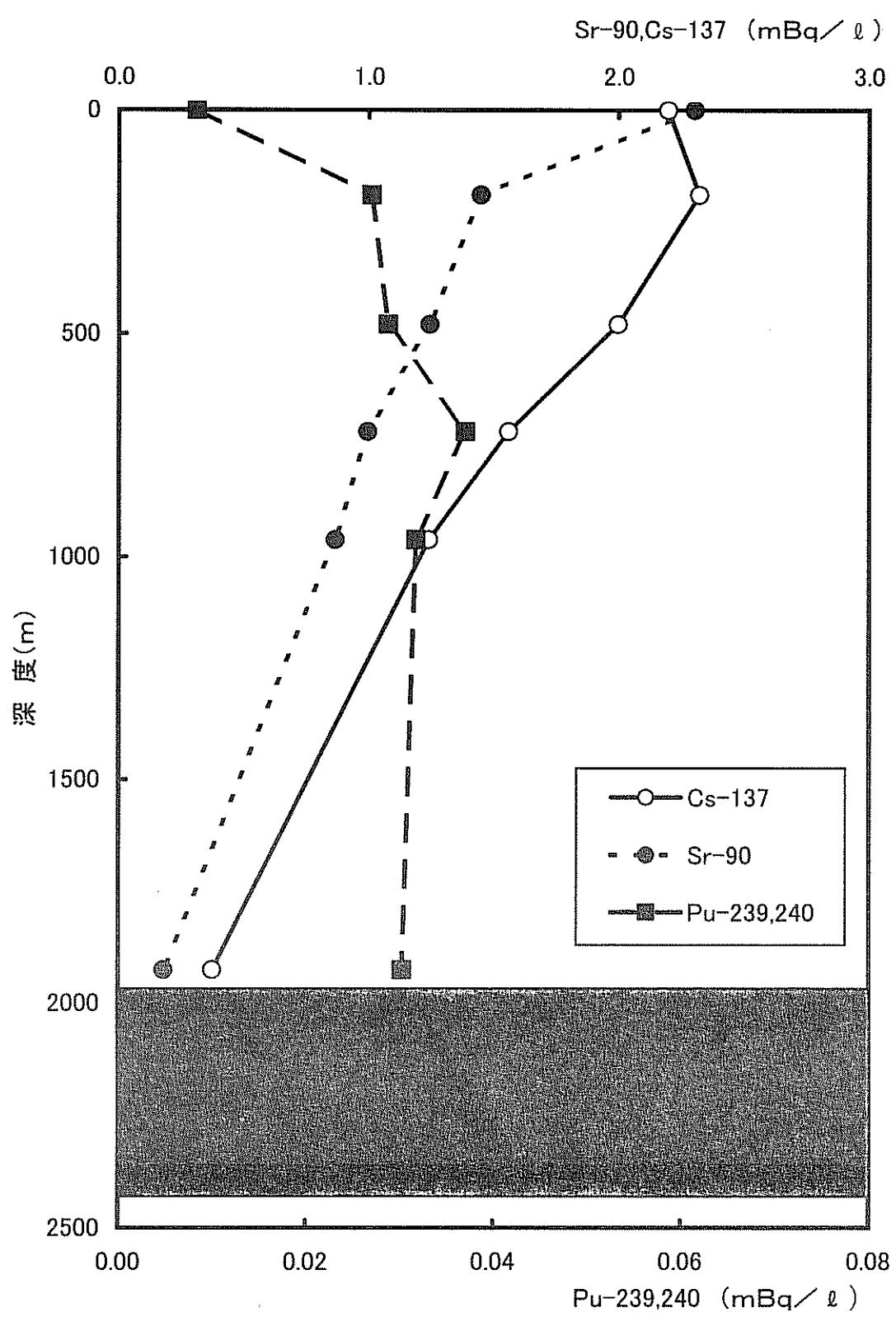


図3-4 測点NO-1における海水中の各核種の鉛直分布

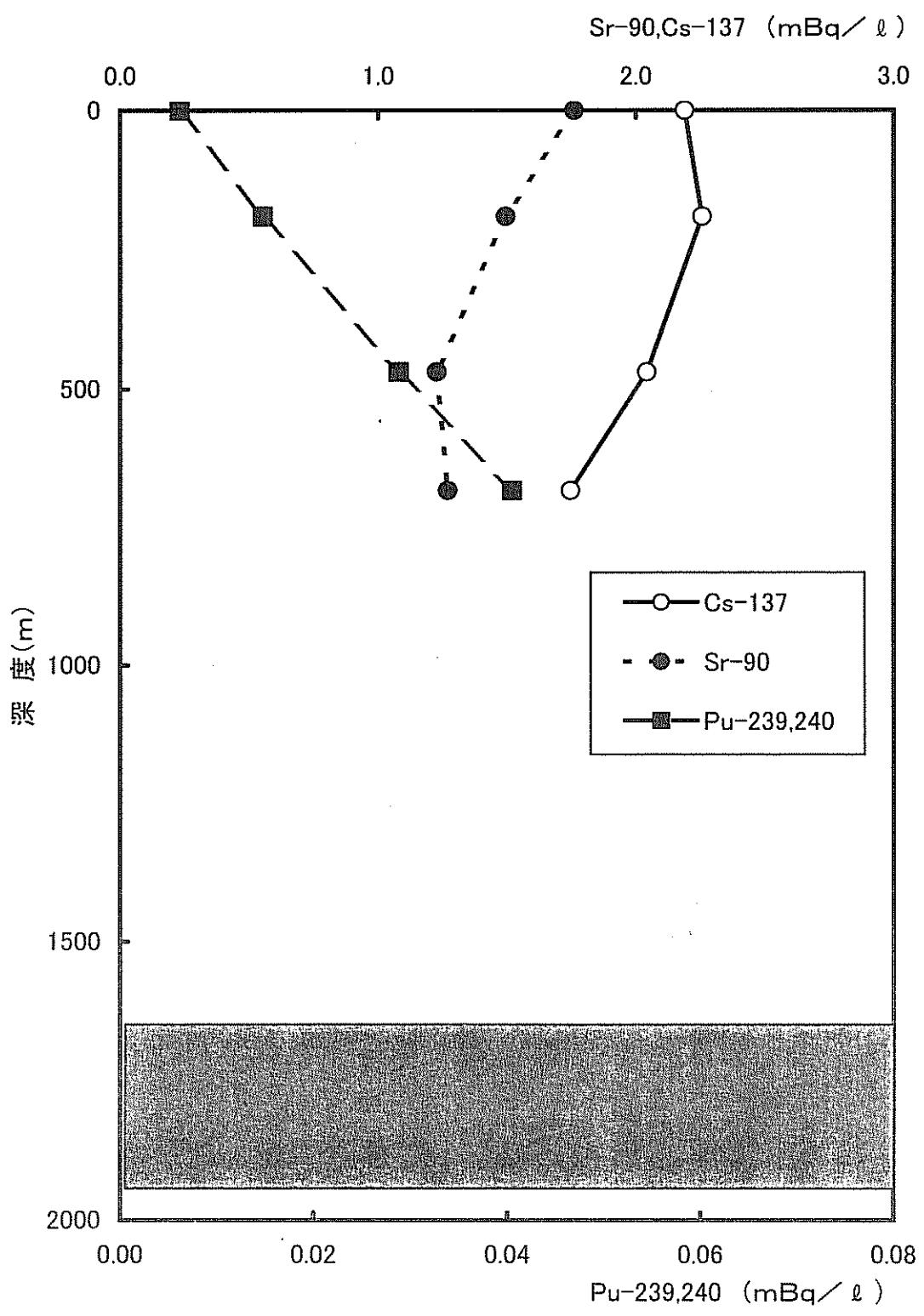


図3-5 測点NO-2における海水中の各核種の鉛直分布

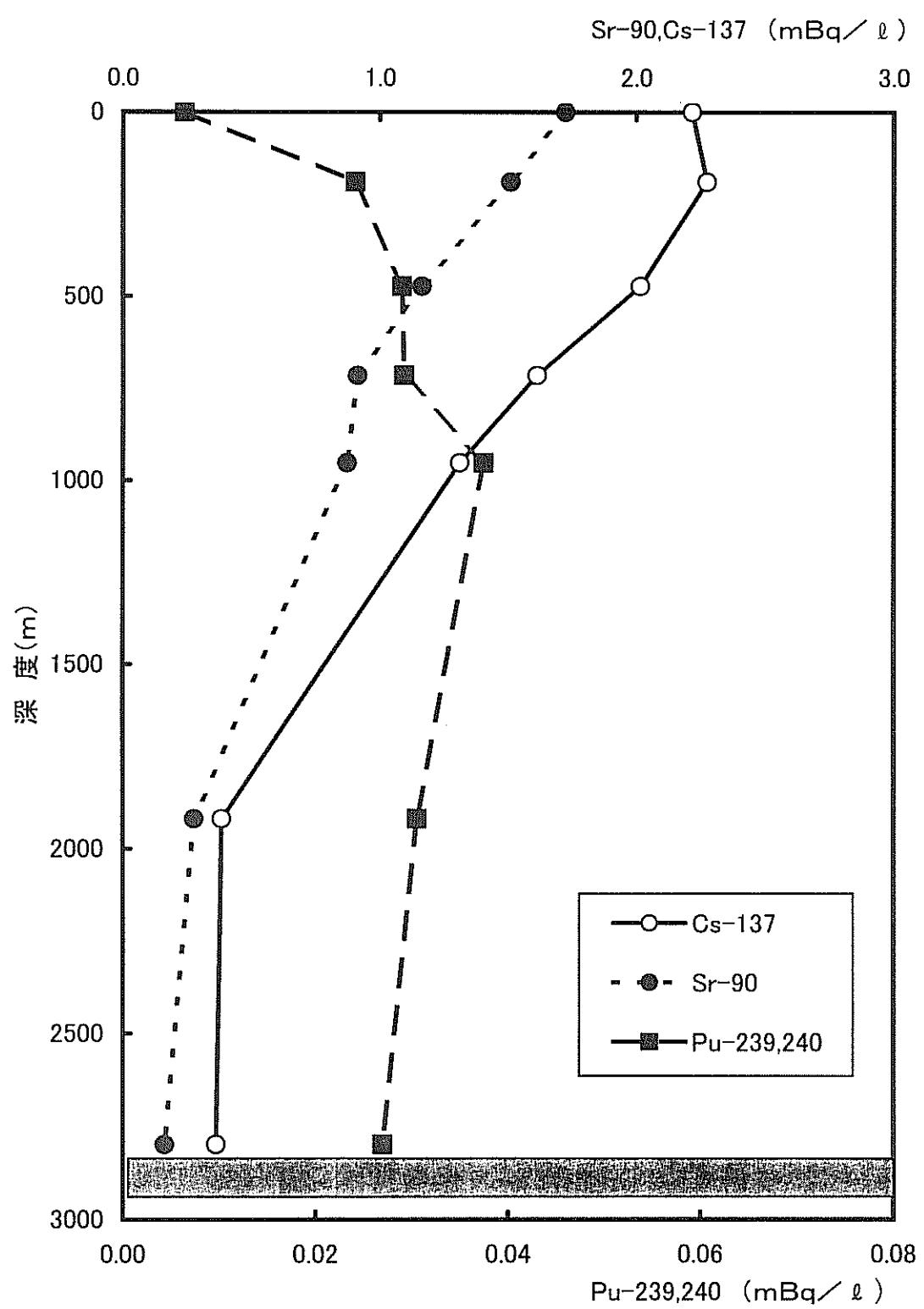


図3-6 測点NO-3における海水中の各核種の鉛直分布

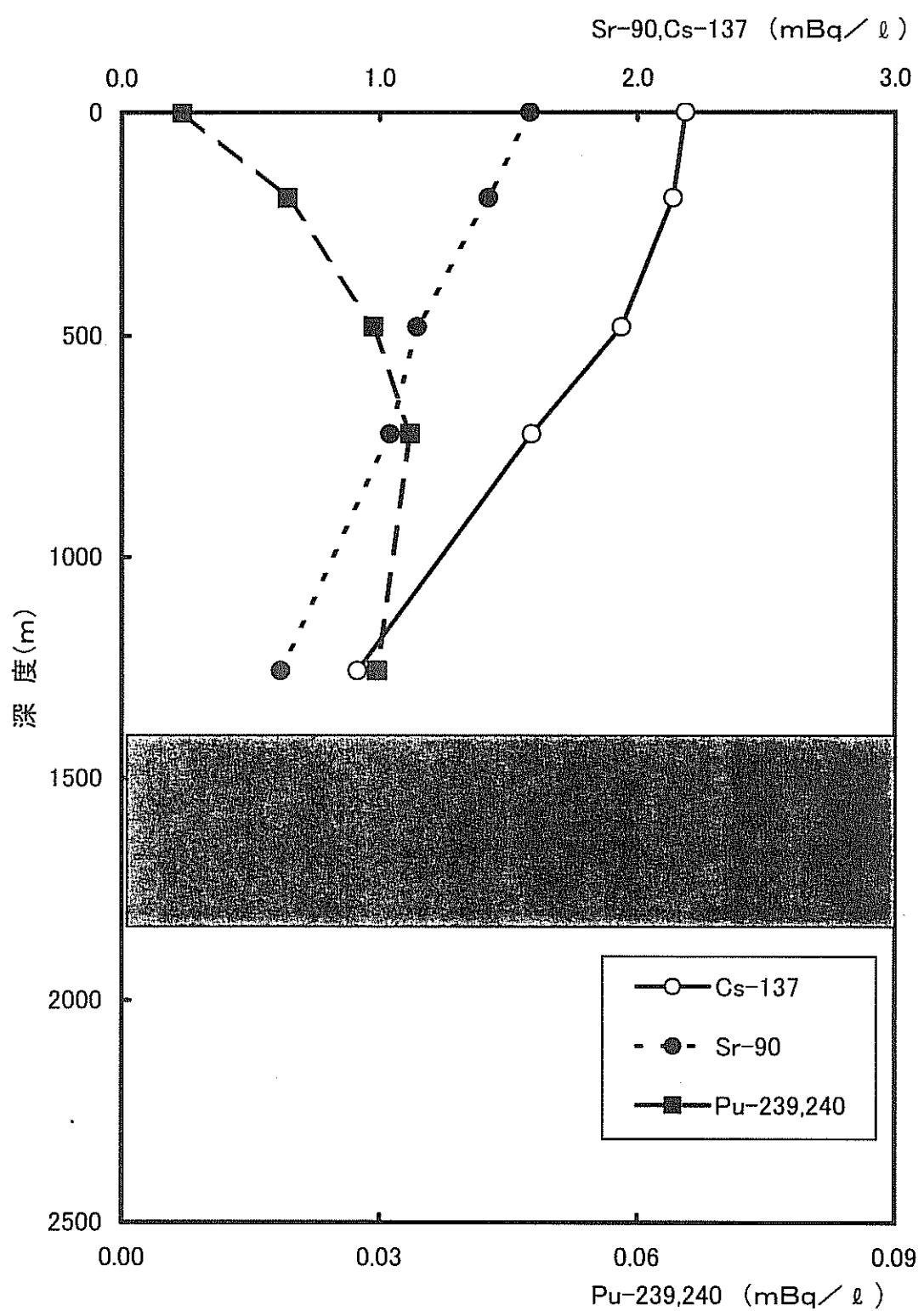


図3-7 測点NO-4における海水中の各核種の鉛直分布

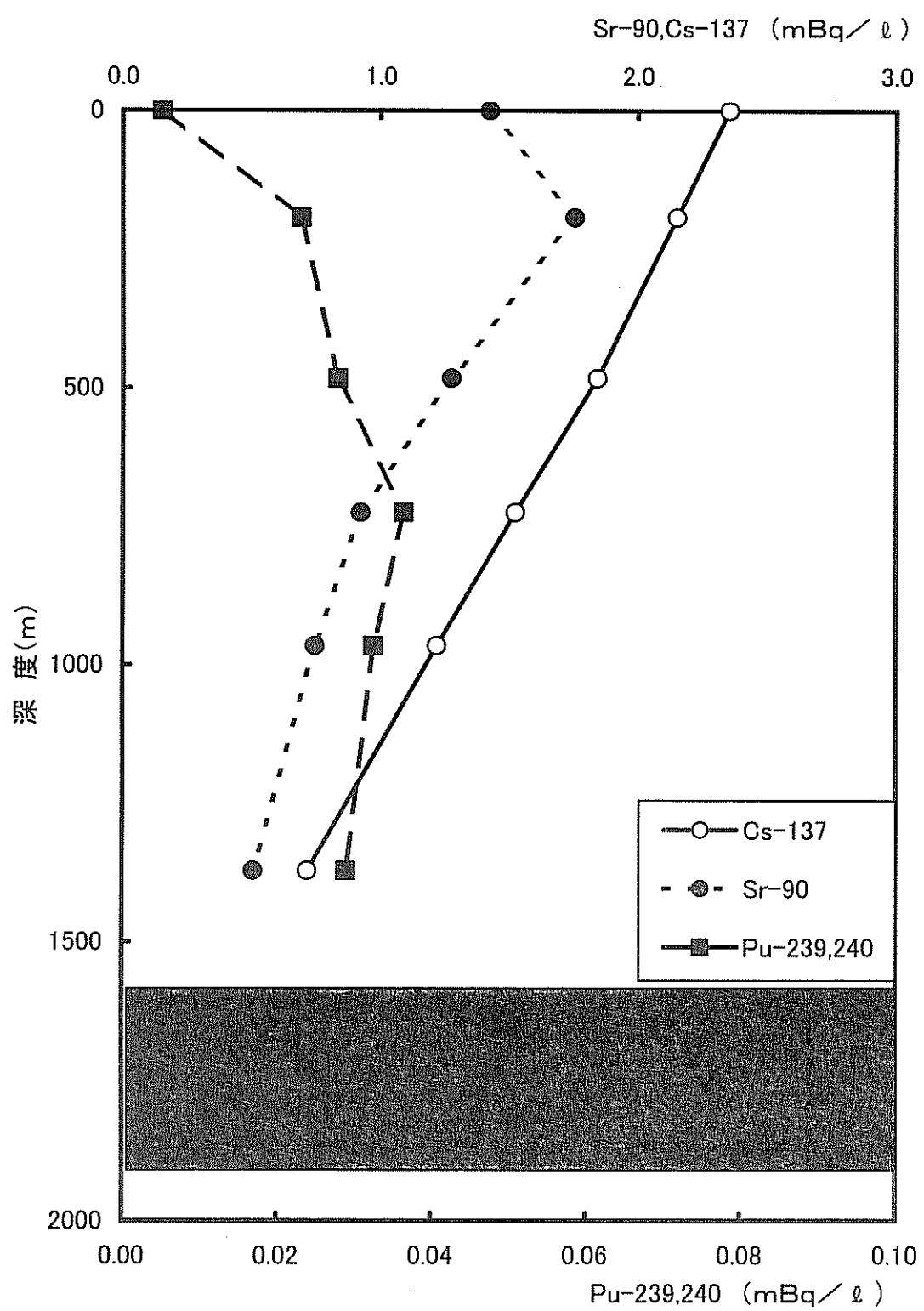


図3-8 測点NO-5における海水中の各核種の鉛直分布

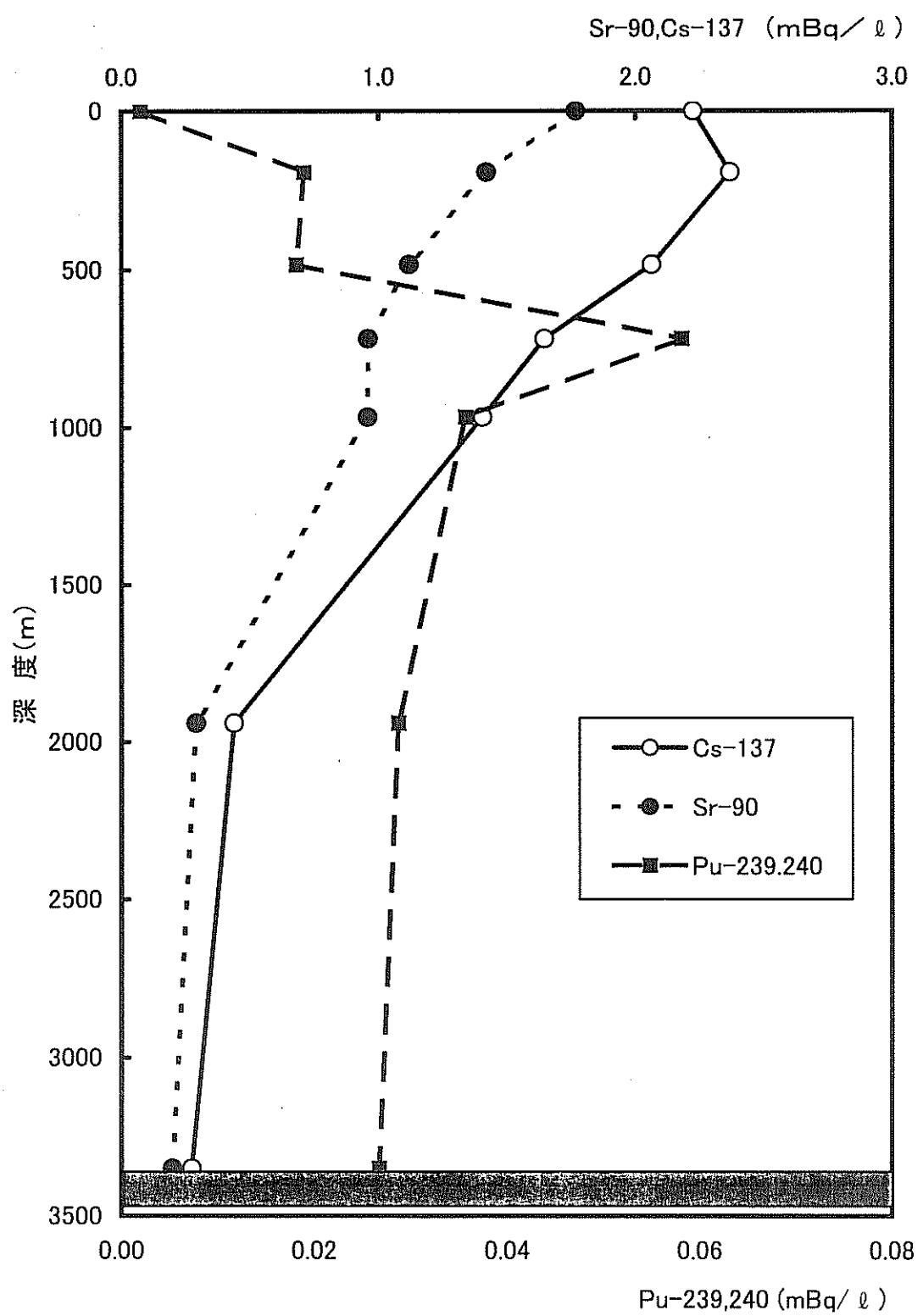


図3-9 測点NO-6における海水中の各核種の鉛直分布

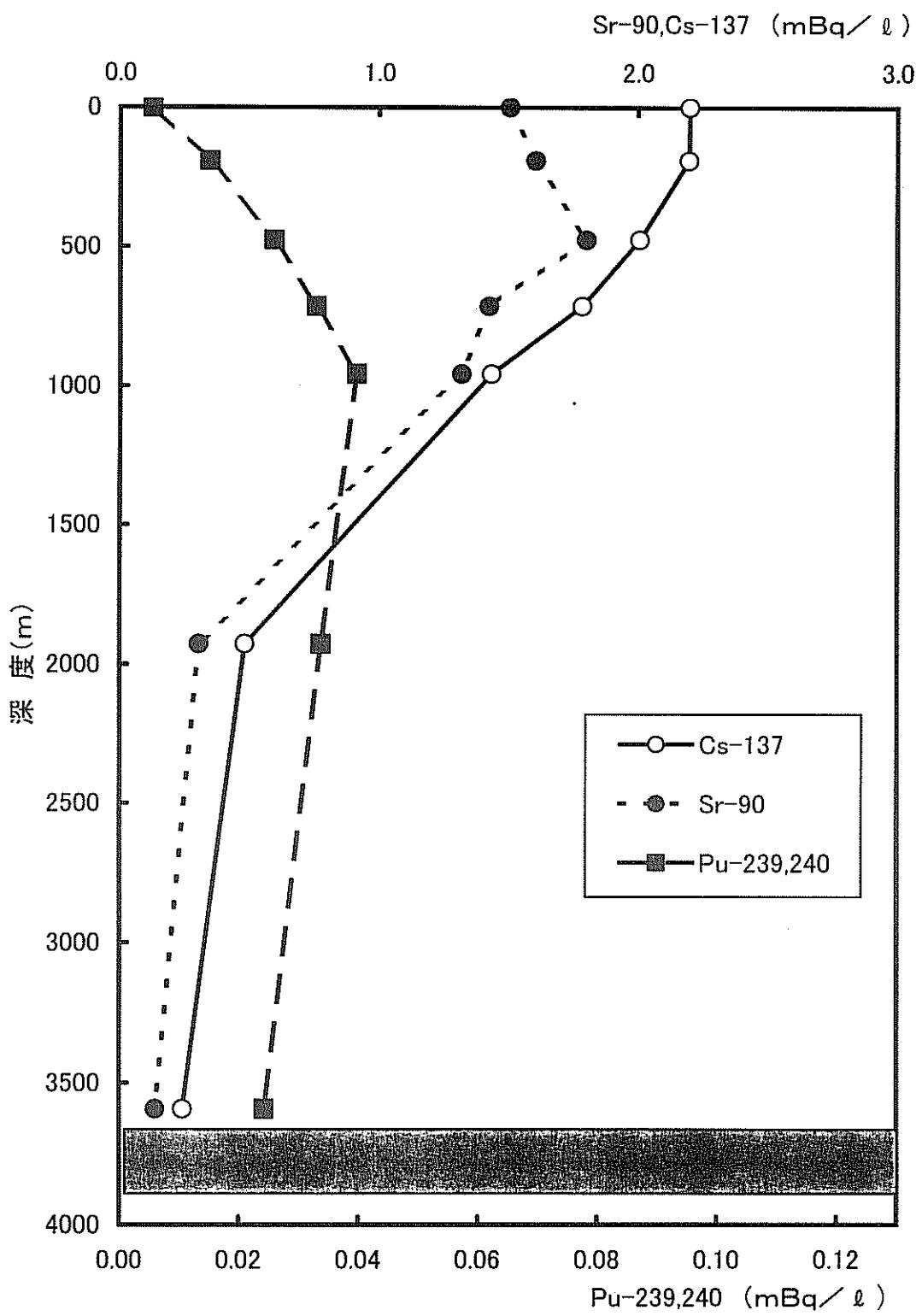


図3-10 測点NO-7における海水中の各核種の鉛直分布

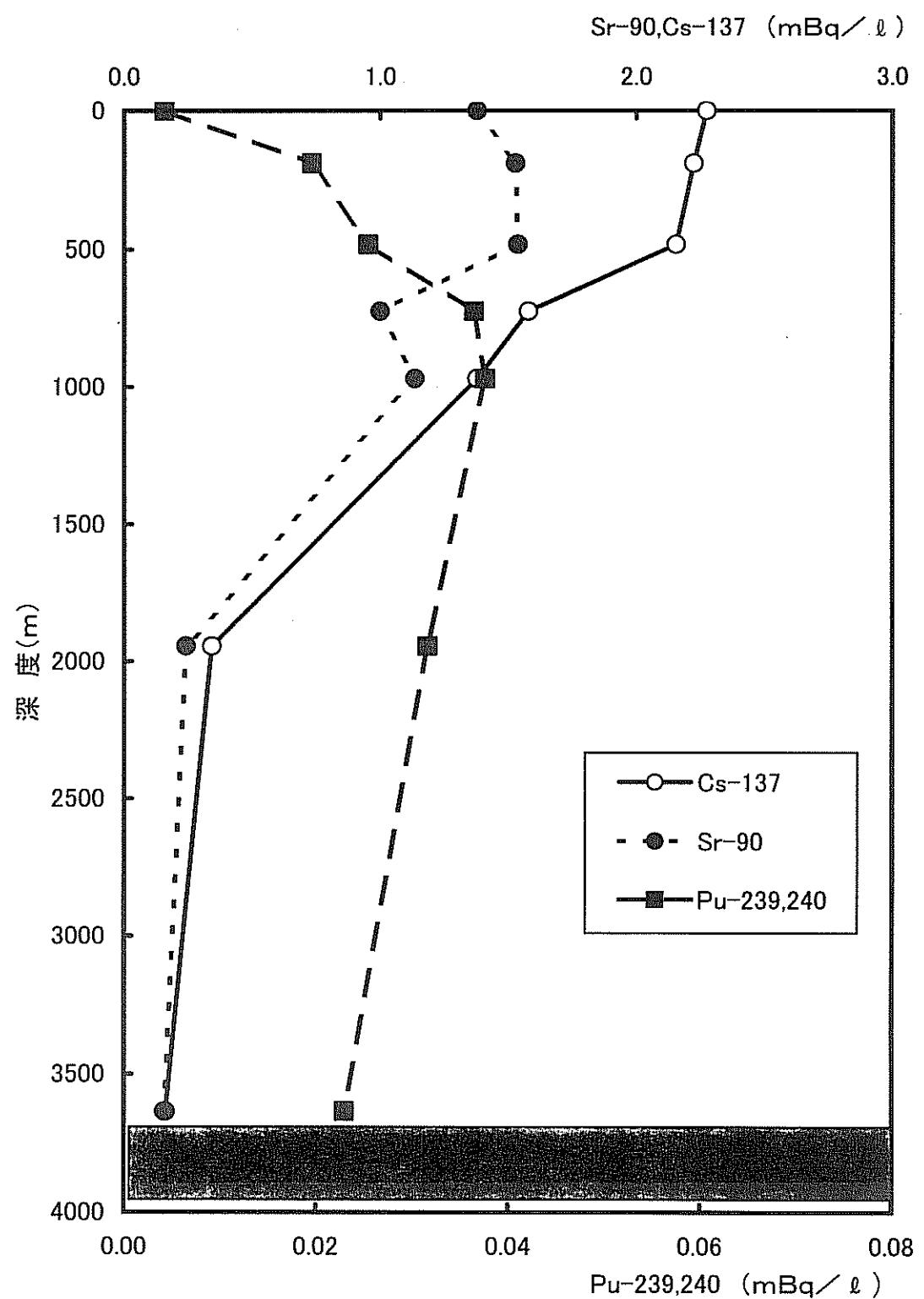


図3-11 測点NO-8における海水中の各核種の鉛直分布

3.7 深海流の測定

旧ソ連・ロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄問題に関連して、放射性物質の拡散の範囲及び拡散速度を求める基礎資料を得るため、男鹿半島北西方（測点N0-E）及び松前半島西方（測点N0-F）の2個所に深海流速計を設置して、それぞれ2000年8月19日から2001年7月1日、2000年8月19日から2001年7月1日までの約11か月間の連続測定を行った。

深海流速計の設置位置及び測定期間等を、これまでのものとともに図3-12及び表3-6に示す。

3.7.1 測定方法

AANDERAA社製の流向流速計（深海仕様）を海底上50m及び100mに直列に設置し、1時間間隔で測定した。

3.7.2 流況の概要

今回測定した測点N0-E、測点N0-F並びにこれまで測定を行った測点N0-1～測点N0-Dの海底上50m層及び100m層の平均流向流速をそれぞれ図3-13及び図3-14に示す。

また、測点N0-E、測点N0-Fの25時間移動平均流速ベクトル図、進行ベクトル図・流向別頻度分布図及び自己相関図・パワースペクトル図をそれぞれ図3-15～図3-17に示す。

測点N0-Eの海底上50m及び100m層ともに時期による変動があるが北西方の流れが卓越しており、平均流速はそれぞれ3.6cm/sec及び3.2cm/secであった。

測点N0-Fの海底上50m層及び海底上100m層とも流れの弱い時期があるが北方の流れが卓越しており、平均流速はそれぞれ3.8cm/sec及び4.8cm/secであった。

最小自乗法により求めた潮流の主要4分潮を表3-5に示すが、測点N0-E及び測点N0-Fの海底上50m層、100m層ともに潮流成分は極めて微弱であった。

なお、自己相関・パワースペクトルを求めたところ、測点N0-Eの両層とも測点の緯度に対応する約18時間、測点N0-Fの両層とも同様に約18時間20分のそれれ慣性周期流の卓越が顕著であった。

また、進行ベクトル図から流動範囲内の流動に大差がないと仮定した場合、物質の流動距離は12か月間で測点N0-Eにおいては、海底上50m層は北西方へ約1,000km、100m層は同じく約960km程度であるものと推定され、測点N0-Fにおいては同様に海底上50m層は北北西方へ約1,000km程度、海底上100m層は北方へ約1,400km程度であるものと推定される。

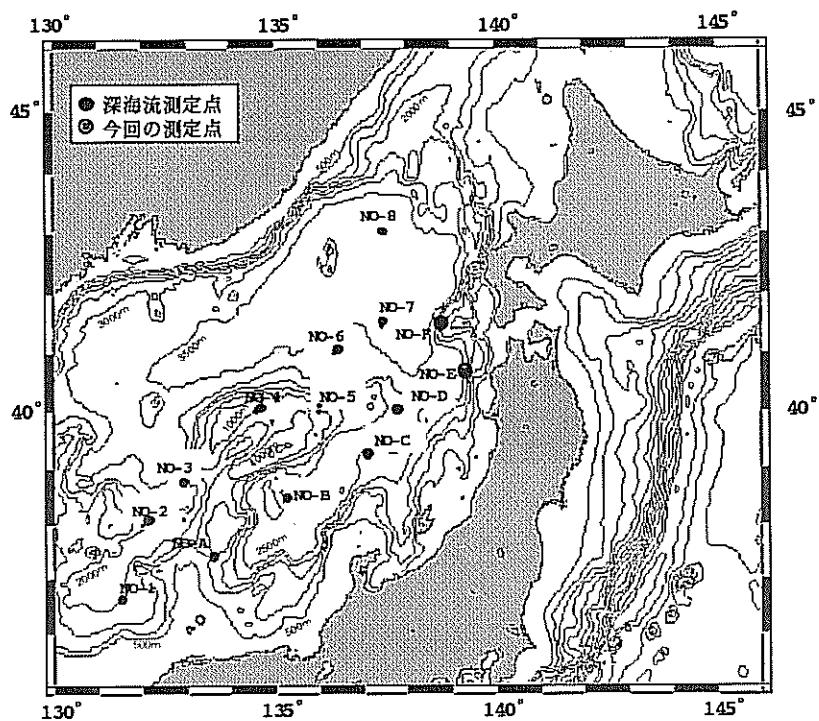


図3-12 深海流速計の測定点

表3-5 調和定数表—主要4分潮

測点番号－測流層	主軸 方向	M ₂		S ₂		K ₁		O ₁	
		Vm/s	K°	Vm/s	K°	Vm/s	K°	Vm/s	K°
NO-E 海底上 50m	44	0.000	79	0.001	75	0.003	17	0.002	344
NO-E 海底上100m	67	0.001	67	0.001	86	0.003	13	0.001	353
NO-F 海底上 50m	345	0.002	186	0.001	225	0.001	112	0.001	125
NO-F 海底上100m	342	0.002	182	0.001	203	0.001	129	0.001	129

表 3-6 深海流の測定位置、観測期間等

測点番号－測流層	測定位置	水深	測流深度	観測期間	解析期間
NO-1 海底上 50m	36-35.1N 131-30.6E	2000m	1950m	1996.9.5 ～ 1997.6.13	1996.9.7
NO-1 海底上 100m			1900m		～ 1997.6.13
NO-2 海底上 50m	38-00.0N 132-00.0E	1680m	1630m	1996.9.6 ～ 1997.6.14	1996.9.7
NO-2 海底上 100m			1580m		～ 1997.6.13
NO-3 海底上 50m	38-43.2N 132-56.5E	2860m	2810m	1994.9.2 ～ 1995.6.7	1994.9.4
NO-3 海底上 100m			2760m		～ 1995.4.13
NO-4 海底上 50m	39-59.6N 134-34.2E	1270m	1220m	1994.9.3 ～ 1995.6.8	1994.9.4
NO-4 海底上 100m			1170m		～ 1995.4.13
NO-5 海底上 50m	40-00.0N 136-00.0E	1340m	1290m	1995.9.9 ～ 1996.6.14	1995.9.17
NO-5 海底上 100m			1240m		～ 1996.4.19
NO-6 海底上 50m	40-58.8N 136-20.8E	3390m	3340m	1995.9.16 ～ 1996.6.15	1995.9.17
NO-6 海底上 100m			3290m		～ 1996.4.19
NO-7 海底上 50m	41-26.6N 137-25.9E	3650m	3600m	1997.9.12 ～ 1998.5.9	1997.9.14
NO-7 海底上 100m			3550m		～ 1998.5.9
NO-8 海底上 50m	43-00.2N 137-31.0E	3680m	3630m	1997.9.13 ～ 1998.5.9	1997.9.14
NO-8 海底上 100m			3580m		～ 1998.5.9
NO-A 海底上 50m	37-24.1N 133-33.4E	1356m	1306m	1998.7.24 ～ 1999.5.10	1998.7.25
NO-A 海底上 100m			1256m		～ 1999.5.10
NO-B 海底上 50m	38-24.0N 135-13.3E	3010m	2960m	1998.7.24 ～ 1999.5.11	1998.7.25
NO-B 海底上 100m			2910m		～ 1999.5.10
NO-C 海底上 50m	39-17.1N 137-00.1E	2750m	2700m	1999.9.1 ～ 2000.5.27	1999.9.1
NO-C 海底上 100m			2650m		～ 2000.5.27
NO-D 海底上 50m	40-00.0N 137-50.0E	2700m	2650m	1999.9.2 ～ 2000.5.27	1999.9.2
NO-D 海底上 100m			2600m		～ 2000.5.27
NO-E 海底上 50m	40-40.1N 139-14.9E	2780m	2730m	2000.8.19 ～ 2001.7.1	2000.8.19
NO-E 海底上 100m			2680m		～ 2001.7.1
NO-F 海底上 50m	41-31.9N 138-44.9E	2660m	2610m	2000.8.19 ～ 2001.7.1	2000.8.19
NO-F 海底上 100m			2560m		～ 2001.7.1

*太字は今回の測定

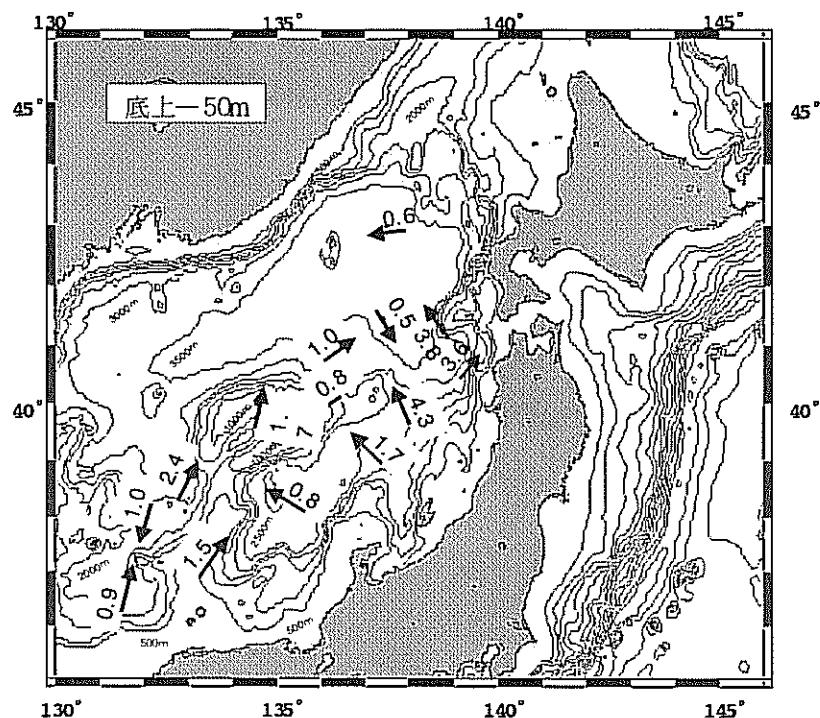


図3-13 底上50m層における平均流向流速図（単位：cm/sec）

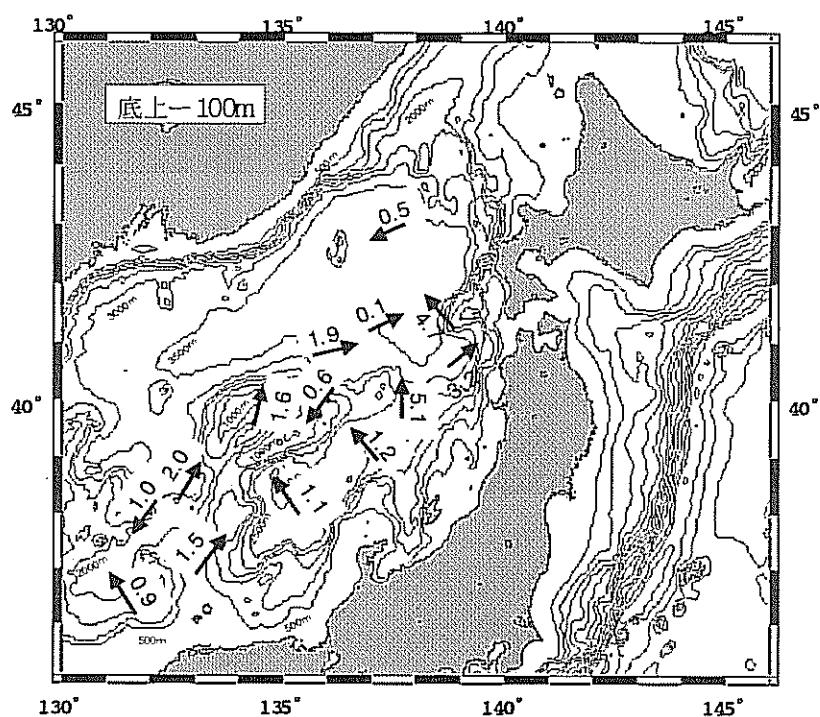


図3-14 底上100m層における平均流向流速図（単位：cm/sec）

地名：日本海

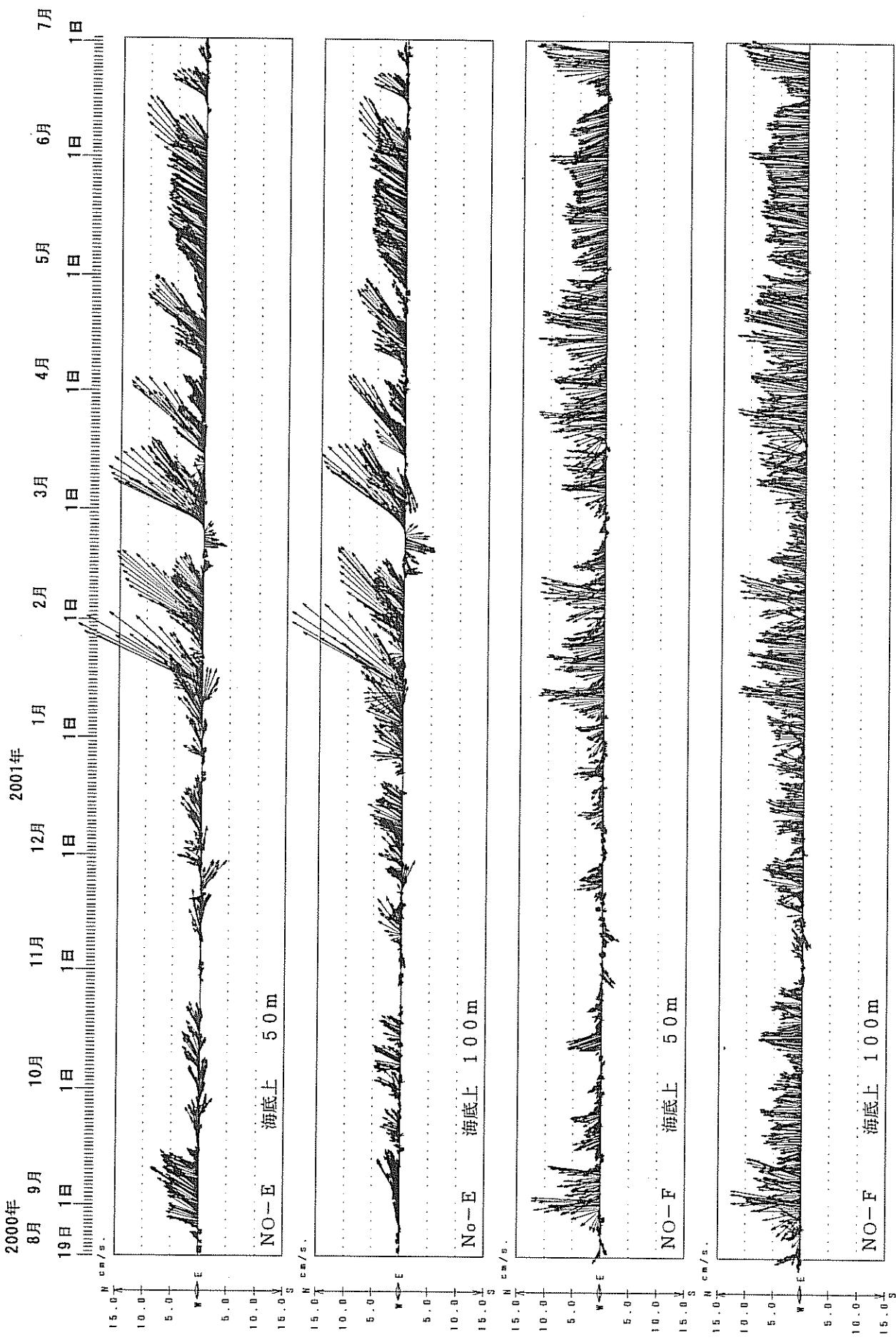
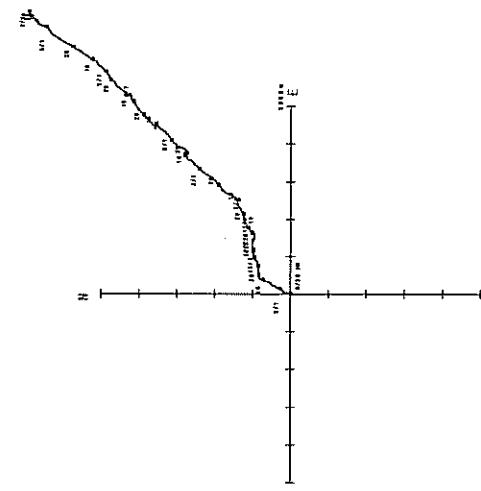


図3-15 流速ベクトル図(25時間移動平均)

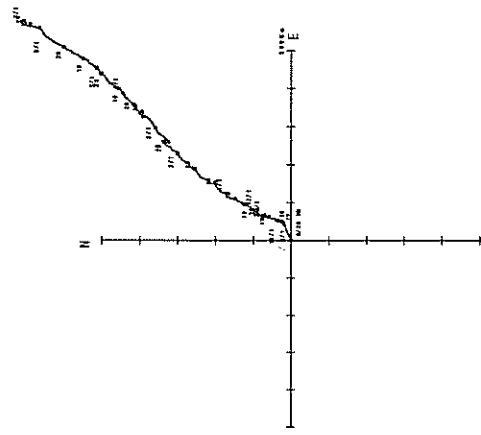
日本海

NO-E

解析期間：2000年8月19日～2001年7月1日



進行ベクトル図



進行ベクトル図

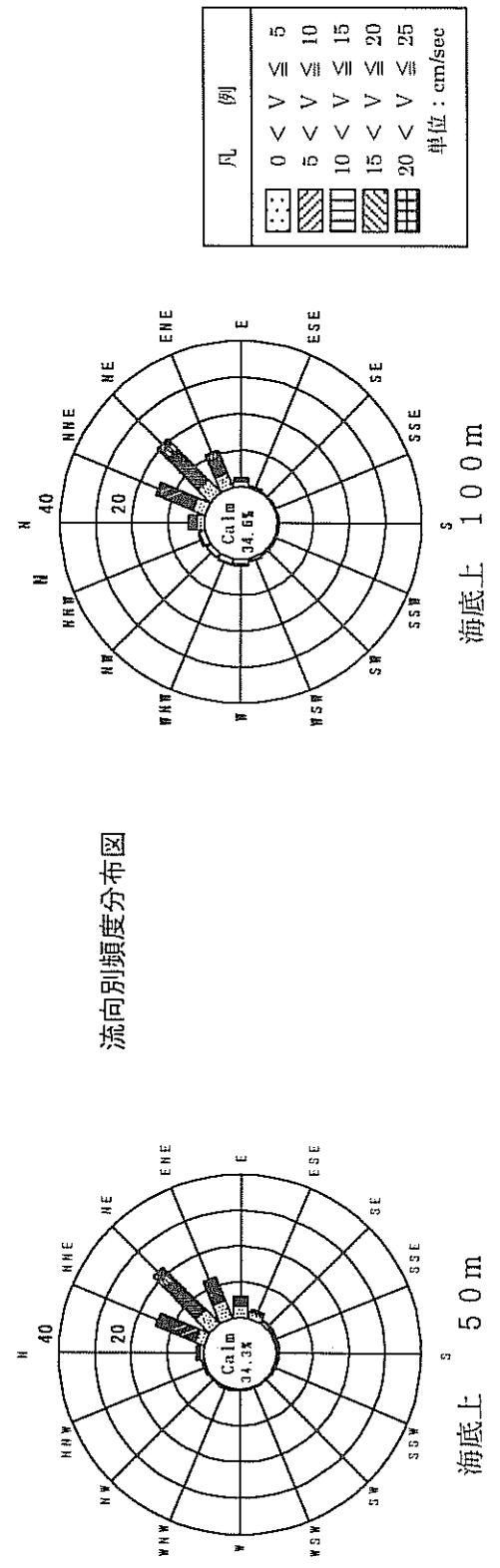
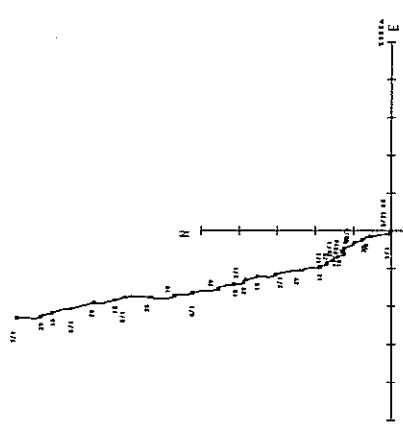


図 3-16 進行ベクトル図・流向別頻度分布図

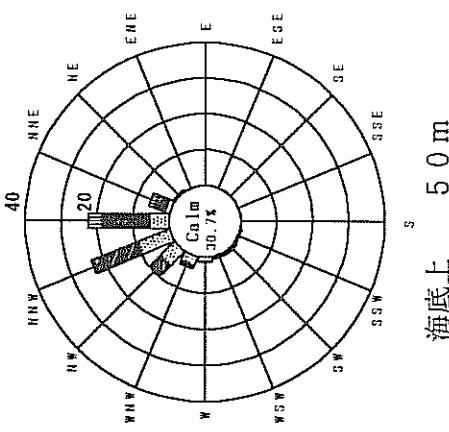
日本海

NO-F

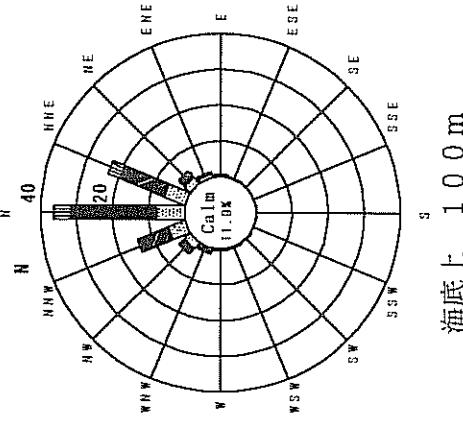
解析期間：2000年8月19日～2001年7月1日



進行ベクトル図



流向別頻度分布図



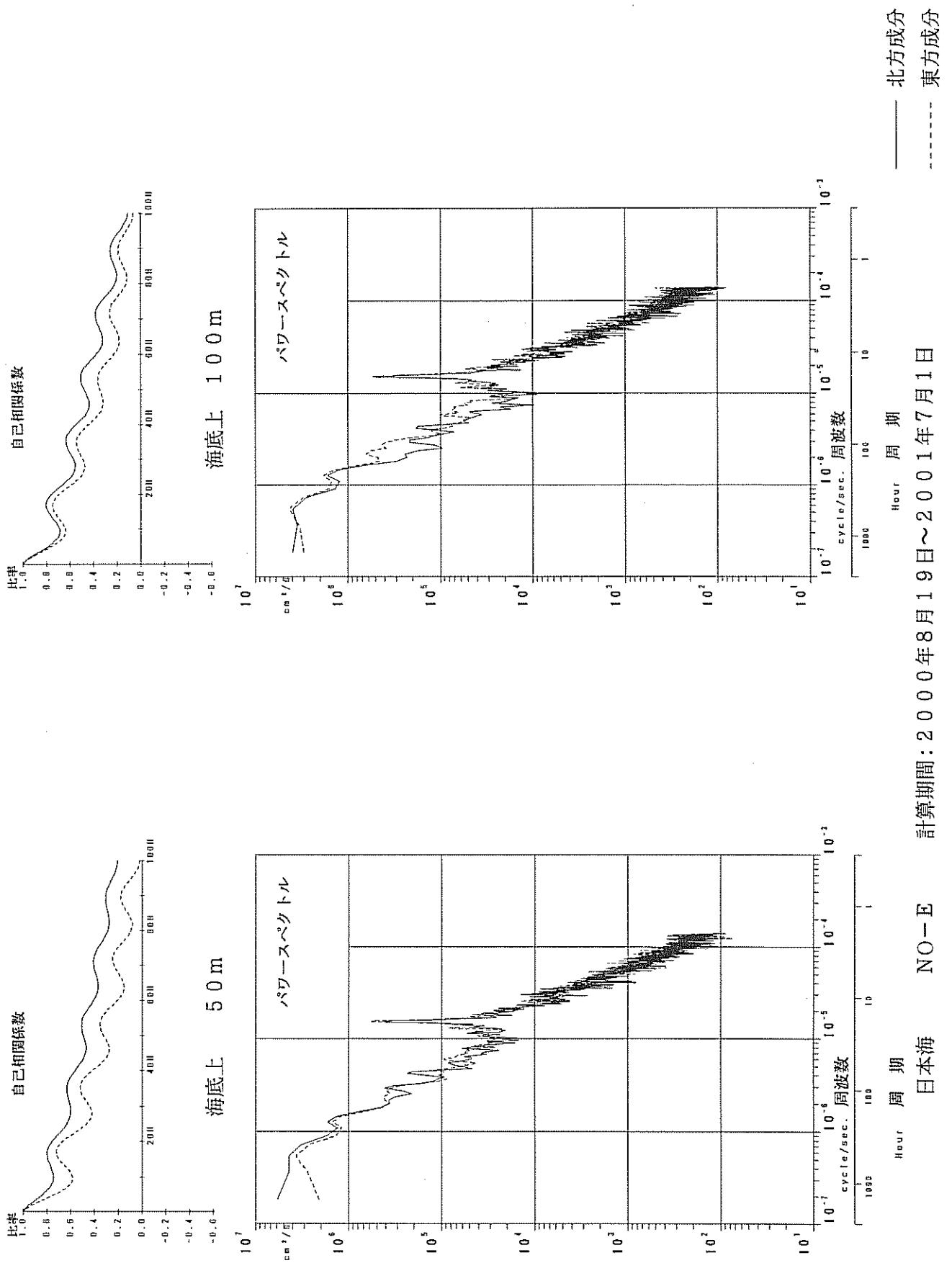
海底上 50 m

図3-16 進行ベクトル図・流向別頻度分布図（続）

凡 例	
□	0 < V ≤ 5
▨	5 < V ≤ 10
▨	10 < V ≤ 15
▨	15 < V ≤ 20
▨	20 < V ≤ 25
	単位 : cm/sec

海底上 100 m

図 3-17 日本海 NO-E 自己相関係数とパワースペクトル



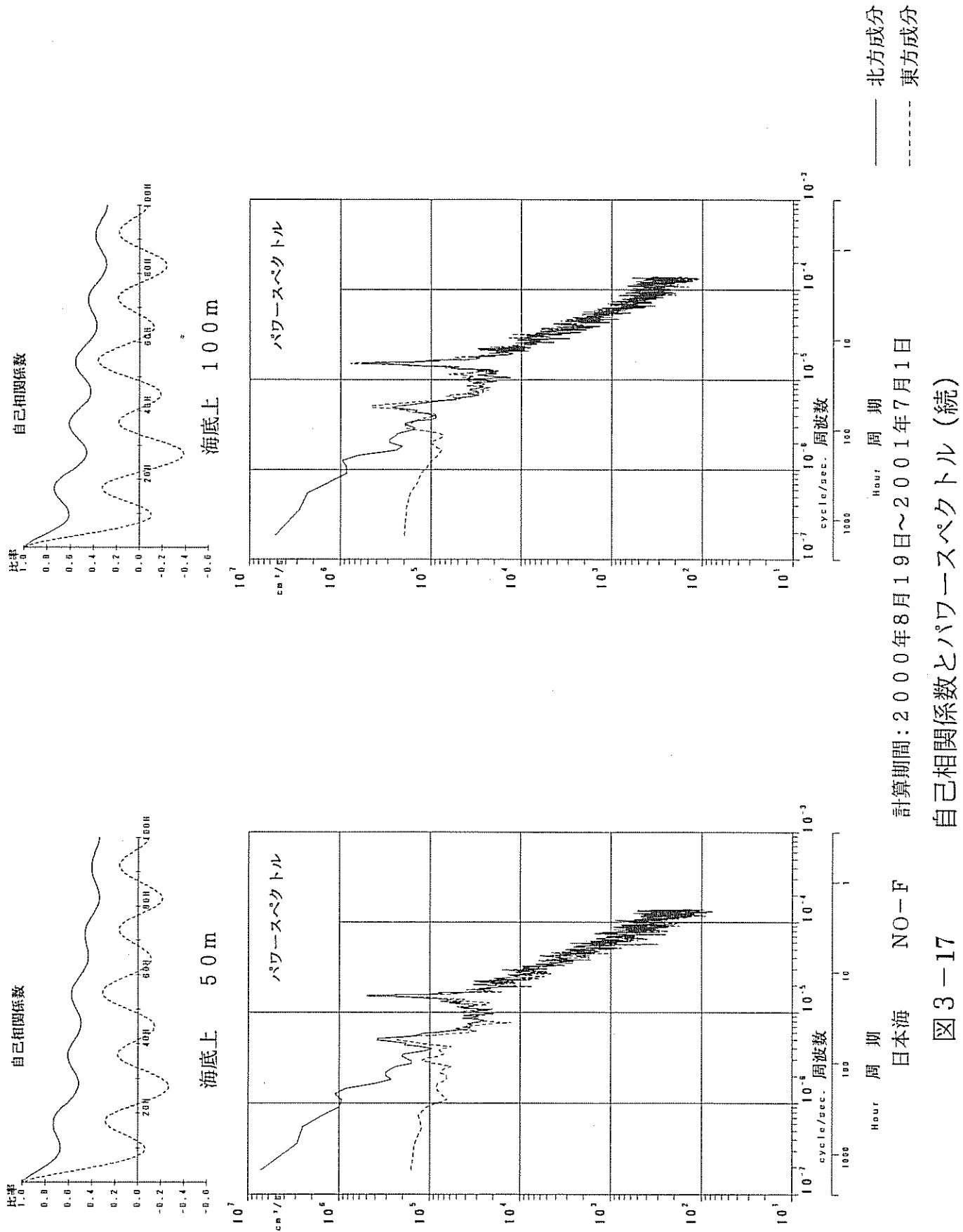


図 3-17 自己相関係数とパワースペクトル (続)
 計算期間: 2000年8月19日～2001年7月1日
 日本海 NO-F